

防衛省

Ministry of Defense

防衛省総合職入省案内2024

防衛省

Ministry of Defense

防衛省総合職入省案内2024

—総合職(事務系・技術系共通)編—

人を守る。
時代を担う。

人を守る。
時代を担う。

—総合職技術系編—
施設系(土木・建築・機械・電気)
装備系(理工系・農学系)



人を守る時代を担う

休日の昼下がり、子供と近所の公園にいくと、
そこにはきらめく子供たちの笑顔がありました。

それは今朝方国際ニュースで見た光景や、
とどまることのない近隣国の挑発を忘れさせるに十分な、
のどかな日常です。

安全保障や国防というと、
どこか自分とは違う世界の出来事だと思ってしまうかもしれません。

しかし、これらの本質は、身近な人を守り、
当たり前の日常を守るという素朴で純粋な感情なのではないでしょうか。

近所の公園で見たのどかな日常、
本能的に、こうした景色を自分の子供や孫の世代にまで
引き継いでいきたいと感じたことは、防衛省で働く原動力なのかもしれません。

しかし、同時に、安全保障や国防は、混沌とした国際情勢の中で
日本の歴史と伝統を守り抜き、我が国の厳然たる国家意思を
国際社会に示していくという壮大な営みでもあります。

人を守る、時代を担う

一人の人間として、また、歴史の当事者として、
皆さんの情熱に応えるフィールドが、ここにはあります。



CONTENTS

- 04-05 防衛事務次官メッセージ/目次
- 06-07 組織図・任務
- 08 新たな戦略文書の策定について
- 09 防衛力の抜本的強化に向けた道筋

SPECIAL CONTENTS

- 10-11 CROSS TALK 01
ウクライナ問題に、防衛省が果たす役割。
- 12-13 CROSS TALK 02
領域横断作戦能力の強化への挑戦。

MISSION

- 14-15 防衛政策の立案
- 16-17 様々な事態への対応
- 18-19 情報の収集分析
- 20-21 防衛力の整備
- 22-23 安定的な運用のために
- 24-25 装備政策の展開
- 26-27 職員からのメッセージ(留学・出向等)
- 28-29 事務系キャリアパス・事務系採用実績

SPECIAL CONTENTS

- 30-31 CROSS TALK 03
ワークライフバランス 出産・育児との両立
- 32-33 若手職員に聞くQ&A
- 34-35 採用チームから皆さんへ
- 36 装備系技官の役割・採用実績
- 37 施設系技官の役割・採用実績
- 38-41 装備系技官の紹介
- 42-43 沖縄で働く施設系技官の紹介
- 44-47 施設系技官の紹介

安全保障。その在り方に唯一の正解はなく、
国の歴史、社会、文化によって様々だ。

「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」
防衛省のミッションは、シンプルなようで奥深い。

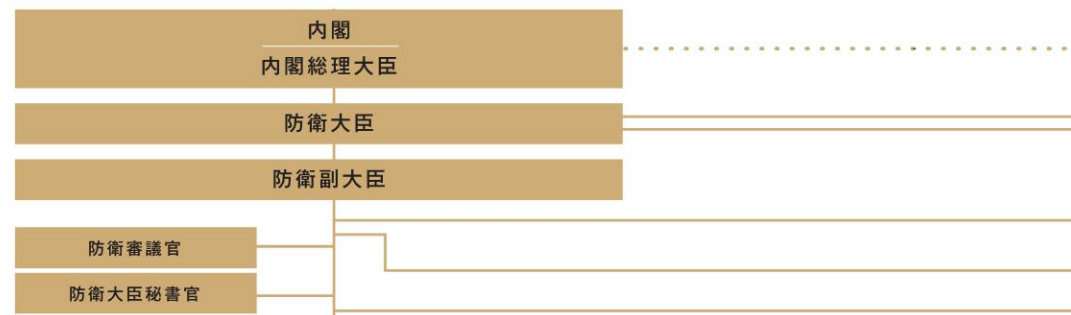
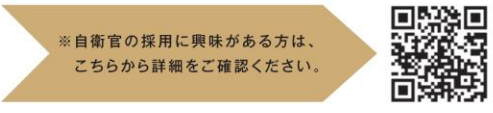
あらゆる叡智を結集し、ときに泥臭く、人間臭く、
防衛省はこの難問に正面から取り組んでいく。

日本の未来を担う諸君。
一生を懸けるに足る壮大なフィールドで、お待ちしております。

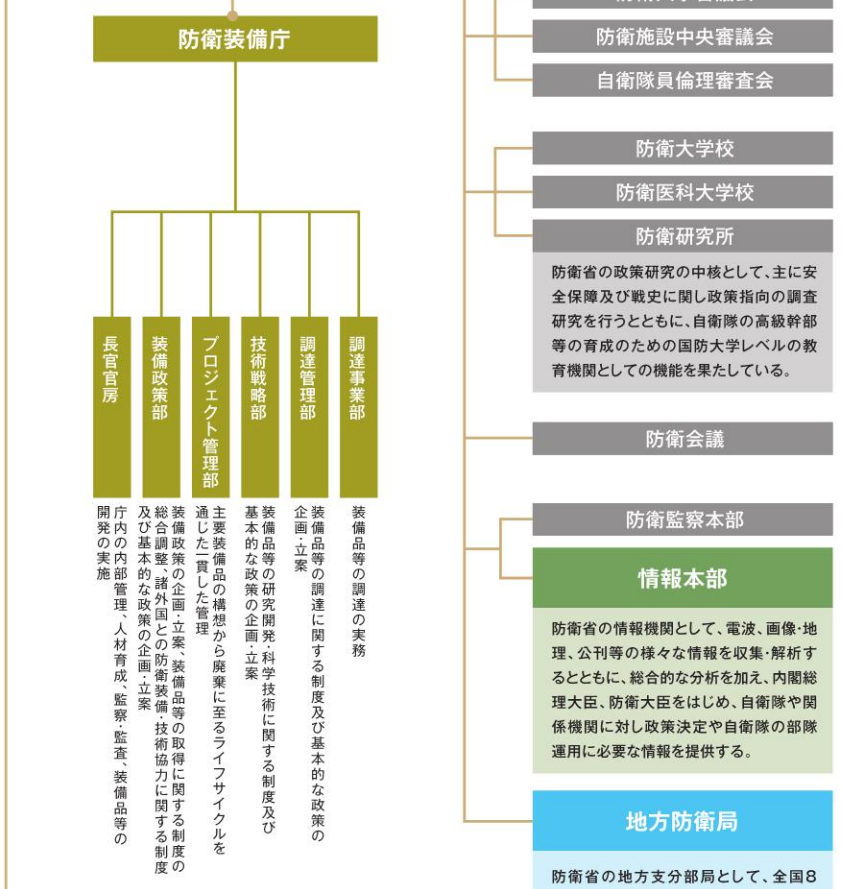
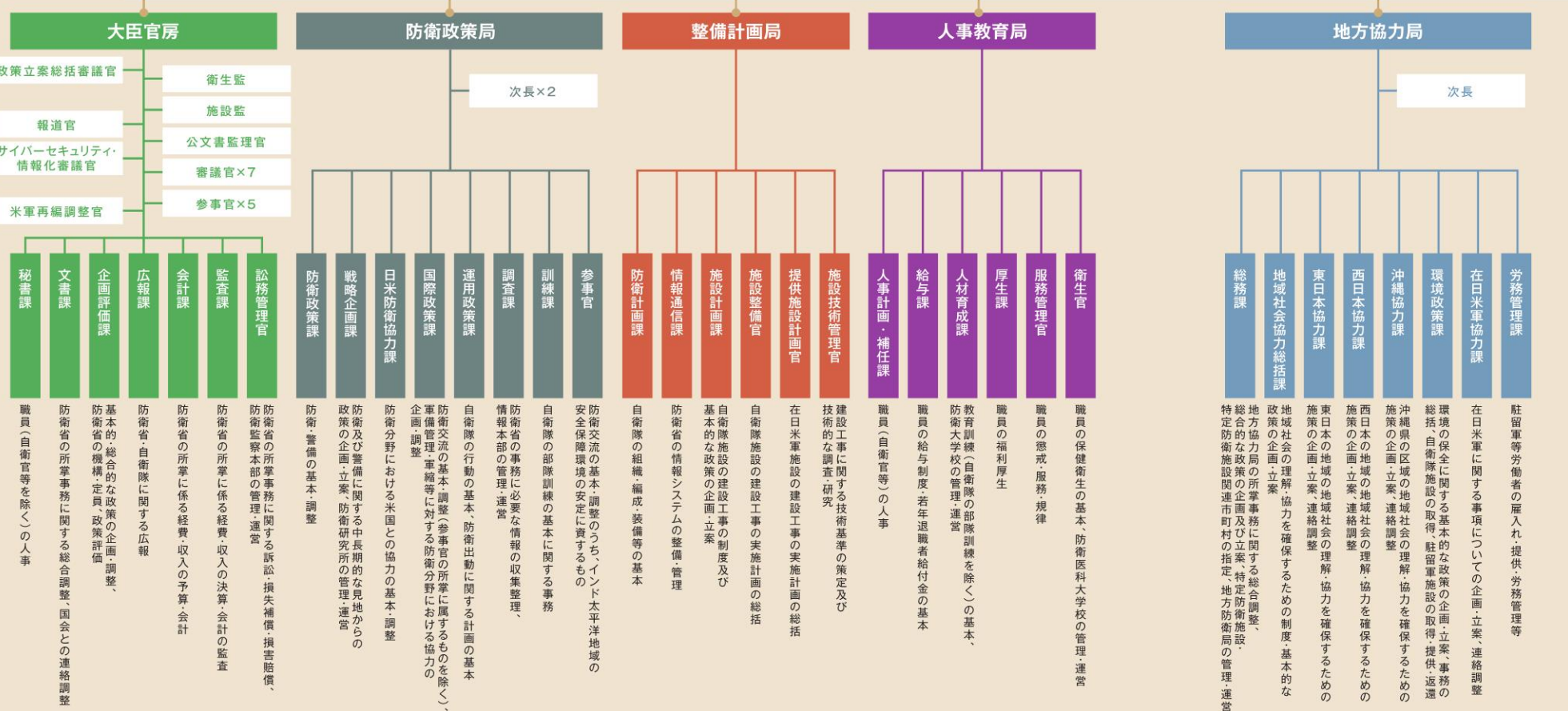
防衛事務次官 鈴木 敦夫

組織図・任務

安全保障環境を踏まえ、先進的な防衛政策を立案し、それを部隊編成、基盤整備、人事、地元自治体からの協力確保、諸外国との連携などに反映させていく各部局。これらが有機的に結び付き、相互に緊密に連携を取りながら役割を果たすことで、防衛省は安全保障という大きな責任を果たしています。



内部部局



総務、人事企画、法令審査、広報、会計、監査、訟務などといった行政組織を管理運営していく上で欠かせない機能を担うほか、国会との連絡調整を行う。

日本の安全保障・防衛に関する基本的な方針や、総合的な政策を手掛ける。「自衛隊の果たすべき役割とは何か」といった方針の立案をはじめ、「宇宙空間やサイバー空間といった新しい課題にどのように対応するか」「米国とどのような協力と役割分担をすべきか」など様々な政策を立案するほか、自衛隊の訓練や各国との防衛協力・交流の企画及び実施、政策立案に必要な情報の収集・分析も担う。

装備品の取得や部隊配備を担当し、陸・海・空に加え、サイバーや電磁波の領域においても自衛隊が適切に任務を遂行できるよう、能力強化に取り組む。また、自衛隊や在日米軍が使用する飛行場や格納庫といった防衛施設の整備に係る企画・立案や技術的調査・研究などを担う。

自衛隊が任務を適切に行うことができるよう、優秀な人材を確保し、個々の隊員が持てる能力をフルに発揮できるように環境を整備する。具体的には、人事管理・勤務条件・給与などの諸制度の企画・立案をはじめ、自衛官の募集や採用、教育訓練、退職支援、福利厚生などに関する業務などを担う。

自衛隊・米軍がその能力を十分に発揮するためには、日頃から全国各地の自衛隊・在日米軍基地の円滑な運用と地域住民の生活や環境への配慮を両立することが重要である。このため、全国8か所の地方防衛局や各部隊、関係機関と連携し、防衛政策への理解促進、危機管理対応、交付金等による地域の生活環境改善等の施策に取り組んでいるほか、気候変動等の環境問題への対応、在日米軍の円滑な駐留に関する各種の施策を行う。

防衛省の外局として設置され、装備品等の研究開発及び生産のための産業基盤の強化を図りつつ、研究開発、調達、補給及び管理の適正かつ効率的な遂行ならびに国際協力の推進を図る。

北海道、帯広支局、東北、北関東、南関東、近畿中部、東海支局、中国四国、九州、熊本支局、沖縄の全11拠点

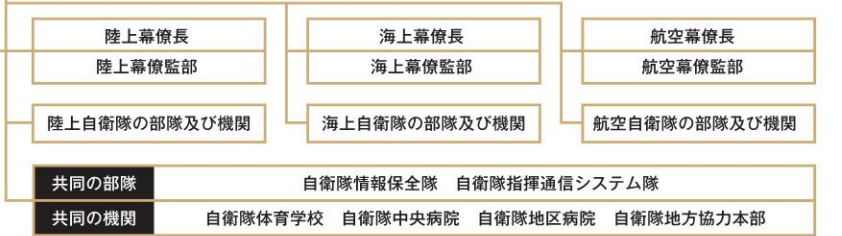


防衛事務官とは
「安全保障」という国家存立の根幹を担う防衛省。世界各国との安全保障協力、国際平和協力活動、大災害への対応、陸・海・空だけではなく、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域においても求められる安全保障の取組など、防衛省が必要とされるフィールドは多岐にわたります。「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」という使命のもと、日々新たな課題に対応しています。

防衛技官とは
防衛省は、我が国の平和と独立、安全を守り抜く最後の砦。ほかの誰にも代えがたいその任務を担う者の中に、理系の専門性を活かし防衛行政に携わる職員、「防衛技官」がいます。防衛技官は、自衛隊の飛行場・港湾・駐屯地といった「防衛施設」の整備や戦車・護衛艦・戦闘機等といった「防衛装備品」の取得、関連する政策の企画・立案を主な任務とし、日々新たな課題に対応しています。

統合幕僚監部

統合幕僚監部は、防衛出動や治安出動、災害派遣、国際平和協力活動をはじめとする陸・海・空3自衛隊の部隊行動等に際し、その運用をつかさどっている。近年さらに重要性が増大しているサイバー領域においても24時間態勢で防衛省の通信ネットワーク及び通信システム等を監視し、サイバー攻撃に対処している。



首席参事官・参事官

実際の部隊運用に関する業務を、対外説明や関係省庁との連絡調整を含め一元的に実施している。

※本組織図は組織の特徴等を表現するため、防衛省の組織全てを精緻に表したものではありません。

新たな戦略文書の策定について

戦後の防衛政策は大きな転換点を迎え、防衛省・自衛隊の役割は新たなフェーズに入っています。

令和4年12月16日、国家安全保障会議及び閣議において、国家安全保障における基本方針である「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」が決定されました。

戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、我々は新たな危機の時代を生き抜かねばなりません。

防衛省・自衛隊は、必要な防衛力を抜本的強化し、真に国民を守り抜く体制を作り上げていきます。

戦略文書の策定はゴールではありません。防衛省・自衛隊の取組は、まさにスタートラインに立ったところです。

- 戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、「国家安全保障戦略」において、伝統的な外交・防衛分野のみならず、経済安保、技術、情報等も含む幅広い分野への政府としての横断的な対応に関する我が国の安全保障戦略を示す。
- その上で、我が国防衛の目標及びこれを達成するためのアプローチ・手段に関する基本方針を示すため、特に防衛分野について防衛力の整備・運用等の指針である「防衛計画の大綱」に代えて、新たに「国家防衛戦略」を策定。
- 「中期防衛力整備計画」については、防衛力の水準（従前の大綱別表）とそれに基づく5か年の経費総額を示した一覧性のある整備計画に代え、新たに「防衛力整備計画」として策定。

従来の体系



3文書の本編はこちらから



防衛力の抜本的強化に向けた道筋

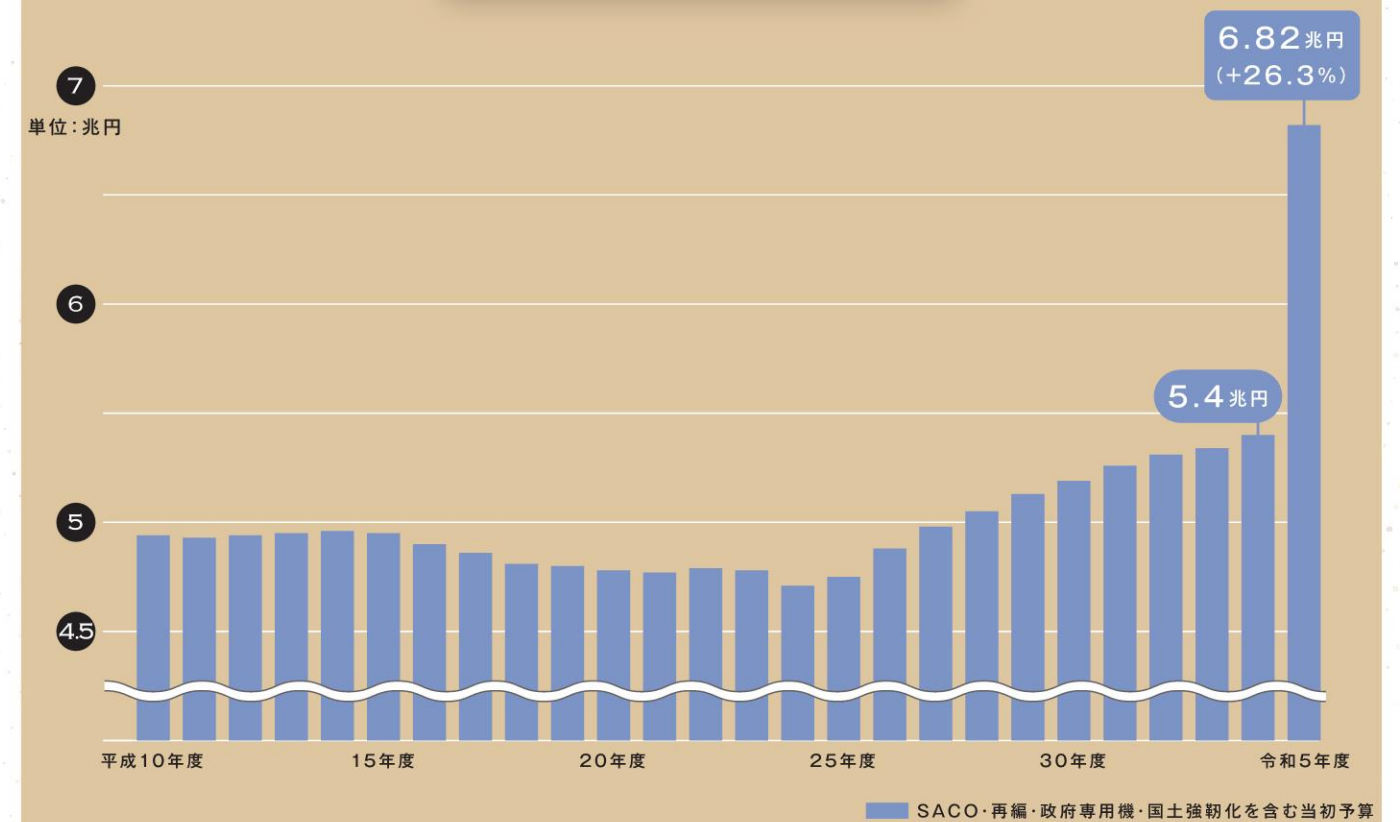
防衛省の役割は、防衛力の抜本的強化を謳うだけでは終わりません。

「国家防衛戦略」に従い、「防衛力整備計画」においては、相手の能力と新しい戦い方に着目しつつ、5年後の2027年までに、我が国への侵攻が生起する場合には、我が国が主たる責任を持って対処し、同盟国等の支援を受けつつ、これを阻止・排除できるように防衛力を強化することとしています。

このように抜本的に強化された防衛力の構築に向けた初年度（令和5年度予算案）において、必要な経費を積み上げ、防衛費の相当な増額を確保しています。

做すべき前例はありません。日本の平和と国民の命を守る使命感を胸に、一步一步着実に歩みを進めていきます。

歳出予算の推移（当初予算）



新整備計画1年目の防衛省予算はこちらから



我が国の安全保障を考えると、
遠い国の出来事ではない

防衛装備庁装備政策部国際装備課
総括班長(当時)
2006年入省 事務系
職員A

2022年2月24日、ロシアによる
ウクライナ侵略が始まる。

職員B ロシアによるウクライナ侵略が始まったのは2022年2月24日です。Aさんは、その知らせを聞いたとき、どう感じましたか？

職員A 「信じられない」というのが率直な気持ちだったと思います。国際秩序の根幹を揺るがす大変な事態が起き、今後、国際社会がどうなっていくのか想像もつかないという心境でした。

職員B それは私も同じです。安保理常任理事国であるロシアが一線を越える行動に出るとは信じがたかった。強い衝撃を受けました。しかし、戸惑ってばかりいられず、国際秩序を守るために我が国は何をすべきなのか、防衛省は何ができるのか、すぐに情報収集を始めた。

職員A 国際社会における役割を果たしていくためには、日本は国際社会と連帯して毅然とした行動を示さなければならぬわけです。また、我が国の安全保障に及ぼす影響も大きい。決して日本から遠く離れた地域での出来事とは考えられませんでした。

職員B そんな状況の中で日本ができる支援としてクローズアップされてきたのが、自衛隊が持つ装備品の提供でした。

職員A ロシアによる侵略が始まってすぐに、ウクライナから日本政府に物品供与による支援の要請が届きました。

職員B そこで前面に立つことになったのが、防衛省・自衛隊において防衛装備品を担う防衛装備庁です。中でも最前線を担ったのがAさんたちの国際装備課。私がいる装備政策課が全体を取りまとめつつ、国際装備課をバックアップすることになりました。

職員A こうして2人にとって、かつて経験したこともないような怒濤の日々が始まったのです。

ウクライナから装備品支援の要請が届く。しかし、前例はない。

職員B しかし、ウクライナから支援の要請があったとはいえ、自衛隊の装備品を他国に提供するのはこれまでにほとんど前例のないこと。まして侵略を受けている最中の国に対して、です。

職員A 最初は正直、果たしてできるのかという気持ちもありましたが、すぐに、いや、どんなことがあっても成し遂げなければならないという気持ちに変わりました。

職員B 我が国では、防衛装備品の海外への提供について「防衛装備移転三原則」が定められています。また、自衛隊法も関係してきます。

職員A ウクライナとの交渉によって最終的に供与することになった装備品は鉄帽(ヘルメット)、防弾チョッキ、防寒服、天幕、カメラ、衛生資材、非常用糧食など。この中でも大きな壁となったのが防弾チョッキでした。

職員B 様々な検討を重ねた結果、防衛装備移転三原則で定める細かなルールである運用指針との関係で、防弾チョッキは従来そのままでは提供できないことがわかったわけです。そこで政府が一体となって運用指針を改定することになった。

職員A それらを実現するために、乗り越えるべき壁は、まさに気が遠くなるくらい数多くありました。ウクライナとの交渉、外務省や国家安全保障局など関係省庁との調整・検討、国会への説明…。

職員B このような対応の大部分を担ったのがAさんたち国際装備課だったわけです。私がいる装備政策課としては、全体を見ながら国際装備課をサポートしつつ、防衛大臣を補佐する立場から省内の調整や国会議員への対応、さらには自衛隊への一般命令の起案・調整などを行いました。

3月8日、第1便の輸送機が日本からウクライナへ飛び立つ。

職員B 今回の案件では、このような防衛装備移転三原則などの検討・調整に加えて、装備品の調達や輸送などオペレーション面での調整・検討もAさんたちが担当したわけです。

職員A そうです。全国の自衛隊基地にある



国際秩序の守り手として、
日本が果たすべき役割は大きい

防衛装備庁装備政策部装備政策課
総括班長
2007年入省 事務系
職員B

ように必死で関係者の意思統一を図りました。そのためにも重要となるのは情報伝達の確実さ。そこが私自身で一番気を配ったところでした。

職員A 私もBさんと一緒に、あまりにも多忙な日々だったので思い出せないことも多いのですが、今感じているのは、たとえ絶対に困難と思えるようなことでも、諦めず知恵を出し合い、多様な人たちの協力を得て前進していけば成し遂げられるということです。

職員B さて最後に、このような経験をを経て、Aさんは、今後防衛省はどのような役割を果たしていくべきだと考えていますか。

職員A 我が国の安全保障は、国際社会や地域の平和と安定のもとに成り立っています。ウクライナ侵略を目の当たりにして、日本人の多くがその大切さを再認識したのではないのでしょうか。今後も国際社会において協調した取組を進めるとともに、様々な国・地域との防衛協力や交流を推進し、日本にとって望ましい安全保障環境を創出していくことが重要だと考えています。

職員B Aさんが言うとおり、「国際秩序の守り手の一員」であることが、国際社会における日本の基本的な立場だと思います。今後は、このウクライナ侵略のように、日本が対応しなければならないことがさらに増えてくるかもしれません。その時に、今ある制度の認める範囲を見極めて、前例踏襲ではなくクリエイティブに考え、迅速に行動し、国際社会に貢献していくことが防衛省に求められる役割ではないでしょうか。より良い明日を見据えて、皆さんと一緒に知恵を絞る日々を、楽しみにしています。

ロシアによるウクライナ侵略、
防衛省が果たすべき役割とは。

ロシアによるウクライナ侵略、
防衛省が果たすべき役割とは。

『サイバーの 鍵を握るのは、人材』

整備計画局情報通信課
サイバー攻撃対処企画班長
2011年入省 事務系
職員C



防衛省による、 領域横断作戦能力の強化への挑戦。

領域横断作戦能力の
重要性がますます高まっている。

職員C 防衛省では、陸・海・空という従来の領域に加えて、宇宙・サイバー・電磁波といった領域横断作戦に関する防衛力の抜本的な強化に取り組んでいます。今回集まったメンバーでは、Dさんが宇宙、私がサイバー、Eさんが電磁波の領域に携わっています。

職員D 宇宙という領域は、歴史をたどると、そもそも米ソの核抑止戦略を支えるために発展してきたフィールドなのです。それが最近では、通信や測位、気象観測など数多くの人工衛星が打ち上げられ、今や宇宙システムは私たちの暮らしや社会にとって欠かせない存在になるとともに、軍事作戦における指揮統制の基盤にもなっています。このような宇宙システムを守るために、宇宙における防衛力が重要となっているのです。

職員C それは私が担当するサイバー領域についても同じです。最近、我が国でも企業などのシステムがサイバー攻撃を受け、毎日のようにニュースになっているので、学生の皆さんも身近に感じているのではないのでしょうか。スマホや家電が良い例のように、今や様々なものがインターネットによってつながりサイバー空間に依存しています。それは防衛省・自衛隊でも同様。合わせて27万の隊員がいて、その基盤を支えるために実に数多くのシステムが動いています。陸・海・空の各自衛隊が使う装備品の多くもシ

ステムによって成り立っていて、護衛艦も戦闘機もシステムやネットワークがなければ機能しないわけです。それだけにサイバー領域におけるセキュリティが、我が国の安全保障において非常に重要な領域になっているのです。

職員E 私が担当する電磁波は、防衛分野では伝統的に利用されてきた領域ですので、宇宙やサイバーとは少し立場は異なるかもしれませんが、いわゆる電子戦といわれる分野では、電磁波を利用できなければミサイルなどの火力発揮も有効にできず、Cさんが話すサイバー領域と同じように、ますます重要度が高まっています。

職員D さらに、それぞれの領域は関連もしていますよね。宇宙領域についても、特に複数の衛星を同時運用する際に、それら一つ一つをシステムをサイバー攻撃からどう守るかが今や重要な課題になりつつあり、この点でも、宇宙とサイバーは切っても切り離せない領域だと感じています。

職員E 電磁波も、そのほかの領域での防衛省・自衛隊の運用の基盤に関わっているという意味でも、宇宙・サイバー・電磁波の各領域は密接な関係にあり連携した政策が必要なのですね。

中長期的な視点から防衛力を
デザインする。

職員C 今密接な連携という話が出ましたが、この3人は政策の取りまとめについてなどよく相談し合うことがありますね。改めて聞きますが、Dさんは現在どんな仕事に携わっているのですか？

職員D まず一つは将来の戦闘機体系など航空自衛隊における防衛力整備。さらに、航

空自衛隊が宇宙領域における防衛力の主体となることもあり、宇宙領域における自衛隊全体の作戦構想を策定しています。中期的な視点から宇宙領域の防衛の在り方をデザインし、それを実現するための装備品などの整備、組織体制の強化などを議論しているところです。いざという時に機能を発揮する防衛力が備わっているのか、日々、自衛官、事務官と交えて議論しています。Eさんは現在、どんな仕事を？

職員E そうですね。Dさんと同じように、電磁波領域における構想の策定が主になります。具体的には、電子戦に備えた装備品の取得・増強や、新しい電磁波技術の研究開発などの検討などです。また、電磁波は社会でも広く利用されている「有限」な資源。人間の無線局と干渉などせずに自衛隊が円滑に電波を利用できるように、関係省庁との連携も重要な仕事となっています。

職員C 私も主なミッションは2人と同じですね。自衛隊全体のサイバー領域における防衛力の強化を今後どのように進めていくのか、それらに関連する政策全般の企画・立案に携わっています。部隊の在り方、部隊を支える人材の確保・育成、必要な制度の整備といった施策を考えることや、サイバー関連施策を実現するための各事業の予算の取りまとめも欠かせない仕事になります。

次代を担う人材の採用・育成も
これからの大切なテーマ。

職員E 領域横断作戦能力を抜本的に強化していくために、個人的に今後重要と考えているような施策はありますか？

職員D そうですね。これから民間企業による宇宙利用がさらに拡大していくと、安全保

『宇宙領域は 知的な総合格闘技』



整備計画局防衛計画課
業務計画第3班 防衛部員
2014年入省 事務系
職員D



障と商業活動の領域の境目が曖昧になってくると思います。ウクライナ侵略でも民間企業がウクライナの衛星通信を支援したように、軍事作戦においても、いかに商業衛星等と緊密に連携を図るかが今後の宇宙領域の重要な課題になると考えています。

職員E 私が電磁波領域において大切になると思っている取組は大きく2つあります。1つは、陸・海・空自衛隊の電磁波の利用状況の把握・管理を行っていく電磁波管理という取組です。電磁波は伝統的な分野でもあるので、各自衛隊独自の考え方があります。今後も電磁波を活用する機会は拡大し、電磁波環境は一層複雑化していくため、統合的な観点から電磁波管理は重要になっていくものと考えています。また、もう1つは新しい電磁波技術の研究開発。世界の動向をキャッチアップしながら、ゲームチェンジャーとなりうる分野を見極めて効率的にリソースを注いでいくべきだと思います。

職員C 私は、2人とは少し視点が違うのですが、これからサイバー分野を強化していくためには人材が鍵を握ると思っています。すでに防衛省では、独自のサイバーコンテストを開催するなど、サイバー人材の発掘や採用に向けて様々な施策を実施しており、部内人材の育成も行っています。また、このような人材の採用・育成だけでなく、自衛隊員一人ひとりのサイバーに対するリテラシーの向上を図っていくことも、地道ですが重要な施策となるはずですよ。

職員D Cさんが言うように、次代を担う人材の確保・育成は私たちが担当する領域全てに言えるこれからの課題だと思いますね。

物理が苦手な文系でも、
柔軟な発想力で多様な分野の
知識を総動員。

職員C 最後に少し本音ベースの話をすると、私はガチ文系なのです(笑)。防衛省に入省した頃は、サイバーの「サ」の字も知らず、まさかサイバー分野に関わるなど想像もしていませんでした。今でも情報通信分野の専門用語や技術を理解するのに苦労することがあります。

職員D それは3人とも同じではないですか。私は、宇宙という領域は、いろいろな分野の知識を総動員しないといけない点で、知的な総合格闘技だと思っています。電波やセンサー、通信に関する技術はもちろん、宇宙ならではの物理法則といった知識も必要になる。けれども私は高校時代、物理が大の苦手でした(笑)。

職員E そのあたりの事情は私も同じです(笑)。しかし、たとえ学生時代に知識がなくても、入省してから業務をする中で理解を深めていくことができるように感じます。

職員C そのとおりですね。それに技術的な知識が必要となる領域だからこそ、私たちのような文系出身の感覚が大切なのではないでしょうか。国民の皆さんをはじめ様々なステークホルダーに施策を知ってもらうためには、私たち自身が理解した上でわかりやすい言葉で伝えていかなければならないと常に考えています。

職員E その意味でも、宇宙・サイバー・電磁波という領域で総合職が担うべき役割は非常に大きいのではないかと感じます。

職員D 宇宙・サイバー・電磁波は、新しい知識や発想が求められ、若い人材の活躍が期待される領域だと思います。最後に、人材採用の重要性を強調していたCさんからひと言をお願いします。

職員C サイバーでは、「明日のサイバーには、君が必要だ」をキャッチコピーにしています。だから、「宇宙・サイバー・電磁波領域の明日には、君が必要だ」とお伝えしたいですね。



『電磁波「資源」の有効活用』

整備計画局情報通信課
防衛部員
2012年入省 事務系
職員E

防衛省による、
領域横断作戦能力の強化への挑戦。

使命感を胸に英知を結集し、我が国の防衛政策を立案

刻一刻と変わる国際情勢を踏まえ、自衛隊が国際社会で果たすべき役割や将来を見据えた中長期的な戦略など、様々な角度から議論を行い、防衛政策の企画・立案を行います。

我が国の安全保障政策の立案

- 我が国防衛の基本方針を考える
- 相手の能力と新しい戦い方に着目した防衛力の抜本的強化
- 国全体の防衛体制を強化
- 国家防衛戦略

日米同盟による共同抑止・対処

- 日米同盟の抑止力・対処力の強化により、日米の意思と能力を顕示
- 日米安保安保障条約
- 日米防衛協力のための指針

同志国等との連携

- 地域や各国の特性等を考慮した、多角的・多層的な防衛協力・交流
- 円滑化協定(RAA)、物品役務相互提供協定(ACSA)
- 共同訓練・演習
- 能力構築支援

Tips 防衛力と脅威

脅威は能力と意思の組み合わせで顕在化しますが、他国の意思を外部から正確に把握することには困難が伴います。戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中で、自国を守るためには、力による一方的な現状変更は困難であると認識させる抑止力が必要であり、相手の能力に着目した自らの能力、すなわち防衛力を構築し、相手に侵略する意思を抱かせないようにする必要があります。

安全保障がかつてなくグローバルな課題となった現在、世界各国は緊密な防衛協力・交流を通じて相互の信頼醸成に努めています。

私は、日本の防衛協力・交流を所掌する国際政策課の中で、止むことのないハイレベル対話や国際会議を成功させるため日々奔走しています。

生活の中で「防衛」を意識する機会はあまりないかもしれませんが、我々全員が住む世界の安定と繁栄のために必要不可欠な現実の営みです。その最前線に立つ組織の一員として、我が国と世界の平和に貢献できていることは何にも代えがたいやりがいがあり、刺激の絶えない毎日です。

皆様と肩を並べて「防衛」の世界に関わる当事者となれる日を心待ちにしています。

防衛政策局国際政策課
総括係員
2022年入省 技術系(装備系)



各国との安全保障協力から我が国の防衛政策を支える一員として

日本は、我が国自身の防衛力強化のみならず、日米同盟強化、各国との安全保障協力強化も含め多角的に防衛政策を進めています。防衛政策の舵取りには、主権を維持し、国民の生命・財産を守り抜くという「熱い気持ち」だけでは足りません。どの国も一国では平和を守り切れない情勢の中で、日本の防衛力の強化につながるよう国際社会を仕向ける「したたかさ」も必要です。

極超音速滑空兵器(HGV)等の新たな脅威が登場し、安全保障環境が厳しさを増す中、私は「総合ミサイル防空」という観点から防衛政策の立案に携わっています。日本の空を守るため、装備品を設計する民間企業やそれを運用する各自衛隊と日々議論し、限られた予算の中で最も効果的な対処構想を立案するのが私の仕事です。その上で、海外に目を向け、広い視野を持つことも忘れてはいけません。例えば、日米両国は、最近、極超音速技術に関する共同研究の検討を開始しました。これは、日米で最先端の技術を生み出すことにとどまらず、同盟深化のアピールとして防衛力強化につながります。また、国際会議の場で各国と議論し新たな協力を模索していくことは、国際社会に仲間を増やすことにつながります。このように、「総合ミサイル防空」の切り口で国内外の多方面を同時に見ながら、日本の「強さ」を作り出し、防衛力強化の加速に寄与することに、大きなやりがいを感じています。

最後に、少しだけ普通話をさせてください。学生時代、私は就職先を考えるにあたって「仕事は楽しいですか」と質問をしていました。そんな中、「楽しい」と答えてくれた方が最も多かったのが、防衛省でした。入省10年目を迎え、もし学生の皆様に同じ質問をされたら、私は「楽しい」と答えます。もっと語りたいところですが、機密性(と文字数)の制約からここに書ききれませんので、防衛省の仕事に興味を持った皆様は、ぜひその目で「楽しい」世界を確かめてください。

防衛政策局戦略企画課
総合ミサイル防空政策班長
2013年入省 事務系

刻々と変わる世界の中で「仲間」との議論を通じ日本の「強さ」を作る



将来にわたって日本を守り抜くための防衛政策の源流として



私は、日々変化する安全保障環境の中で、将来にわたって日本の平和を維持するため、技術的側面から貢献したいと志し、防衛省への入省を決めました。防衛施設の建設という日本の防衛力の具現化は一朝一夕では実現できず、中長期的に考える必要があります。私は現在、防衛政策課という今後の日本の防衛政策の在り方について検討する、いわば防衛政策の「司令塔」である部署に身を置き、日々業務に奮闘しています。入省してからの約1年間、毎日のように学ぶことができ、日々成長を実感することができています。日々変化する安全保障環境の中で、将来にわたって日本を守り抜くために何ができるのか、防衛省と一緒に考え・実現してみませんか。

防衛政策局防衛政策課
総括係員
2022年入省 技術系(施設系)

様々な事態に対応し、 国民の生活を守る

弾道ミサイルの飛来や国内での大規模な災害などの
様々な事態に対し、部隊の活動を円滑に遂行するための
枠組みを整備します。

様々な事態 への対応

- 警戒監視活動
- 弾道ミサイル等の経空脅威への対応
- 国民保護
- 在外邦人等の保護・輸送

大規模災害 への対応

- 迅速な展開
- 初動対処部隊

統合幕僚監部首席参事官付は、災害派遣
や対領空侵犯措置、ミサイル対処、PKO、
在外邦人等輸送をはじめとする国内外で
の自衛隊の運用について、関係部局・他省
庁との調整や対外的な説明など、現場部隊
と国民の「架け橋」の役割を担っています。
時に1分1秒を争うようなスピード感を求
められる業務であり、苦労や反省も絶えま
せんが、こうした積み重ねが日本の安全に
対する国民の信頼に直結するということ
を胸に刻みながら、事態対処を担うチーム
の一員として、刺激的で充実した日々を
送っています。
防衛省に期待される役割が日々拡大・多様
化している今の時代に、この瞬間を分かち
合える仲間をお待ちしています！

統合幕僚監部首席参事官付
総括班係員
2021年入省 事務系

現場の部隊と 国民をつなぐ「架け橋」に



陸・海・空自衛隊の一体的な運用を担う統合幕僚監部は、自衛官
と事務官混合の組織です。部隊の効果的な運用のためには、自衛
官の軍事的知見のみならず、事務官の政策的・法的知見が欠かせ
ません。首席参事官付は、政府内の関係部局等と部隊との間に立
ち、政策的見地からの「理想」と際限あるリソースの中での「実現
可能性」をすり合わせることで最適な防衛態勢を実現する役割を
担っています。その中で私は、海上自衛隊のオペレーションを担
当しています。海洋国家日本にとって、海は繁栄の源である一方、
安全保障上の危機が到来しうる経路でもあります。日本周辺で警
戒すべき状況が多発している昨今、自衛隊の艦艇や航空機は24
時間態勢で警戒監視を行っています。そして首席参事官付の私
たちも、特異な状況が生じた際には即座に対応します。
例えば、あるハードな一日をご紹介します。深夜、外国軍の艦艇の
特異な動きに関する報告で跳ね起き、着の身着のまま家を飛び出
し、省に急ぐ。オールジャパンで対応できるよう、省内関係部署や
関係省庁等にスピーディかつ正確に情報を伝達する。自衛隊が政
府全体の方針と合致した万全の対応を取れるよう、運用のエキス
パートたちと連携して部隊と調整する。懸念すべき状況を国民や
国際社会に発信すべく、対外公表する。…そして様々な対応を取
るうちに、次の夜がやってくる。もちろん上記の生活は毎日ではな
いのでご安心いただきたいのですが、お伝えしたいのは、日本の
安全は、それを確保するための地道な努力の積み重ねを土台に
成り立っているということです。私もその「積み重ね」に貢献する
ため、目の前の危機、そしてそれに対峙する部隊に近いところで、
責任と使命を日々感じながら仕事をしています。
防衛省で働きたいと門戸を叩いた7年前のことを今もよく覚えて
います。日本に危機が迫ったときに、国を、そして大事な人た
ちを守るために当事者として働きたい。上司や同僚と共通の使
命に向かって尽力し、闊達に議論できる職場が良い。政策の企
画・立案からその実行まで責任を持って関わりたい。皆さんがそ
れぞれの志を胸に、共に安全保障を担う仲間に加わってくれる
のを心待ちにしています。

統合幕僚監部首席参事官付
国内運用班日米運用協力専門官
2016年入省 事務系

海上オペレーションの 最適解を見出し 危機の到来を未然に防ぐ



「当たり前の日常」を 法制度面から支える



運用政策課は、自衛隊の運用を法制度面から
支えるための政策立案を行っています。私は
課の窓口として、国会答弁の作成のサポート
や、他部署との調整業務等を担っています。
2022年の通常国会で成立した在外邦人等
の輸送に係る自衛隊法の改正は、運用政策
課が担当しました。改正に向けての国会答弁
の作成のサポートを行う中で、自衛隊のあら
ゆる行動は法制度による裏打ちがあって初
めて成り立つということを実感しました。
私は、自分自身の生活だけでなく広く国民の
「当たり前の日常」を守ることに携わりたい、
という思いから防衛省への入省を決めました。
日々厳しい安全保障環境を目の当たりに
することでその思いはさらに強くなっており、
国の防衛政策の一翼を担うことにやりがい
を感じています。同じ意志をもつ仲間と苦楽を
分かち合いながら、業務に励んでいます。

防衛政策局運用政策課
係員
2022年入省 事務系

日本を守るための 情報を収集、分析する

中長期に至るまで安全保障環境のトレンドを把握し、
事態の兆候がある場合には速やかに察知できるよう、
隙のない総合的な情報収集・分析を行います。

情報収集・分析

- 電波情報・画像情報・地理情報・警戒監視情報・公刊情報の収集
- オールソース分析

国内外の 情報機関との 情報交換

- インテリジェンスコミュニティとの協力
- 国外の情報機関との連携
- 防衛駐在官の派遣

ユーザーへの 情報提供

- 情報ニーズの把握
- 適時・適切な情報支援
- 対外的な情報発信

インテリジェンス 機能の強化

- インテリジェンスサイクルの活性化
- 最新技術・新たな手法の活用
- 認知領域を含む情報戦への対応

ウクライナ国境に集結するロシア軍の車列。これは先般のロシアによるウクライナ侵略の直前に報道された、民間の商用衛星による画像の情報です。地球を周回し、宇宙から地表の活動を撮像する衛星は、他国の軍事動向を知る上で重要な情報源です。私が所属する画像・地理部は、このような衛星画像の収集・分析・共有に関する業務などを行うことを任務としています。あの時この情報を得られていれば、日本への侵攻を防げたかもしれない。そのような後悔をすることがないよう、「宇宙の目」である衛星を活用したインテリジェンス機能の強化に日々取り組んでいます。

情報本部画像・地理部
情報調査専門官
2018年入省 事務系



「宇宙の目」となる インテリジェンスを 強化する

ロシアによる核戦力を誇示しながらのウクライナ侵略。中国の軍事活動活発化や米中の戦略的競争。繰り返される北朝鮮のミサイル発射と、取り沙汰される核実験の可能性…。戦後最大の試練を迎えていると言える現代日本。私が学生の時には、世界がこうなるとは思っていませんでした。いや、まだもう少し先かなと思っていました。

調査課戦略情報分析室は、世界の軍事情勢に関する情報を収集・分析し、政策部局に対してその政策立案・意思決定に資するインテリジェンスを提供しています。その中で私は日夜、特に北朝鮮の軍事動向を様々な情報源を基に追いかけて、分析しています。

北朝鮮はこれまでも核・ミサイル開発を行ってきましたが、2022年には、かつてない高頻度で弾道ミサイルを発射しました。回数のみならず、ミサイル防衛網を掻い潜るように変則的な軌道で飛翔するミサイルを発射したりと、関連技術・運用能力の向上を着々と進めていることも近年の特徴です。短距離ミサイルから米国本土を射程に収める長距離ミサイルまで、多様な兵器を開発し、あらゆる段階で優位に立って状況を管理するという狙いのもと、彼らは今後も各種ミサイル発射を繰り返し、核実験さえ行うかもしれません。

こうした動向は、まさしく我が国にとっての脅威です。国民の平和な暮らしを守り抜くため、我が国として防衛力の抜本的な強化を進めている中で、我々の分析がその政策決定の基礎となる。深夜の対応や一分一秒を争う緊迫した事態に直面することもあります。防衛官僚としてこれほどの醍醐味はありません。

私が学生だった2016年も、北朝鮮はミサイル発射や核実験を繰り返していました。自分が社会人である今後数十年、日本は間違いなく大きな困難に直面する。その時に傍観者でいたくない。そう願って入った防衛省で、今私は、想像以上のスピードで変わっていく国際情勢と向き合っています。我々と一緒に、戦後最大の試練に立ち向かう仲間をお待ちしています。

防衛政策局調査課戦略情報分析室
防衛部員
2017年入省 事務系

新たな危機の時代の中で 防衛政策の基礎となる 情勢分析を提示する



認知領域を含む情報戦に 対応できる体制の整備



軍事、経済、情報など、様々な手段を織り交ぜるハイブリッド戦が世界中で盛んに繰り返される中、自らに有利な国際・地域秩序の形成に向けて偽情報の流布を含む宣伝工作を行う国家の存在が指摘されています。我が国の情報機能を抜本的に強化し、隙のない情報収集態勢を構築することが急務です。

調査課は、情報政策の司令塔として、どのような情報を収集し誰に届けるか、我々の情報をいかに守るかを企画立案する課です。その中で私は、いわゆるインテリジェンス・コミュニティとの調整のほか、防衛省・自衛隊の情報機能強化の検討に従事しています。忙しい日もありますが、憧れの職場で働く幸せを噛みしめながら仕事をしています。

防衛政策局調査課本課
総括班係員
2021年入省 事務系

自衛隊の活動を支える 防衛力の整備

戦い方の様相が大きく変化中。新しい戦い方に対応できるかどうか
今後の防衛力を構築する上で大きな課題です。
航空侵攻・海上侵攻・着上陸侵攻といった伝統的なものに加えて、
精密打撃能力が向上したミサイルによる大規模な攻撃、情報戦を含むハイブリッド戦の展開、
宇宙・サイバー・電磁波の領域や無人アセットを用いた非対称的な攻撃等を組み合わせた
新しい戦い方が顕在化しています。
こうした新しい戦い方に対応していくために、
自衛隊に必要な「人」や「モノ」、自衛隊の体制を整備します。

遠距離から 侵攻戦力を 阻止・排除

- スタンド・オフ防衛能力
- 統合防空ミサイル防衛能力
- スタンド・オフ・ミサイル
- ミサイル防衛システム

領域を横断して 優越を獲得し、 非対称的な 優勢を確保

- 無人アセット防衛能力
- 領域横断作戦能力
- 指揮統制・情報関連機能
- 衛星コンステレーション
- サイバー防衛隊
- システム・ネットワーク

人的基盤の強化

- 自衛隊の精強性の確保
- 教育・研究の充実
- 女性の活躍推進
- 働き方改革

防衛施設の グランド デザイン

- 自衛隊の活動基盤の整備
- 司令部等の地下化や構造強化
- 既存施設の再配置・集約化
- 防衛施設の強靱化への投資を加速

Tips 我が国の防衛に必要な能力・機能

- ① スタンド・オフ防衛能力 ② 統合防空ミサイル防衛能力 ③ 無人アセット防衛能力 ④ 領域横断作戦能力 ⑤ 指揮統制・情報関連機能
⑥ 機動展開能力・国民保護 ⑦ 持続性・強靱性

私が所属する防衛計画課は各自衛隊の編成、装備品の整備計画などを所掌しており、防衛力整備の重要な役割を担っています。その中で私の業務は窓口対応であり、各種の照会、依頼を迅速に課内に周知し、滞りなく業務を進められるよう取り仕切ることです。加えて整備計画局の取りまとめを行う課であるため、局内調整も行います。案件が多くとても忙しい毎日ですが、それだけ多くの業務に携わり、自衛隊の部隊や装備品等について深く知ることができると、日々勉強しています。また、今後日本を守るための種々の計画に関われることはやりがいとなっています。大変ですが興味深いことも多く、成長できる職場で、皆さんと共に国防の一翼を担えたらと思います。

整備計画局防衛計画課
係員
2022年入省 技術系(装備系)

防衛力整備の全般を担う



安全保障環境が急速に変化し、宇宙・サイバー・電磁波といった従来領域にとどまらない戦い方が広まる中、我が国を確かに守り抜く対処力・抑止力を構築するためには、どのような装備品や部隊が必要なのか。防衛計画課では、このような問題意識のもと、自衛隊の防衛力整備を担っています。将来の安全保障環境を先読みしながら必要な防衛力を導き出すと同時に、各装備品が十分に機能を発揮できるようにロジスティクスにも目を向けながら、一日でも早い戦力化に向けて日々業務を行っています。

私の担当している陸上自衛隊では、南西地域の防衛体制を強化するための与那国島や石垣島などの島嶼部への部隊配備や、新領域を活用した新しい戦い方に向けた電子戦部隊の配備、無人機等の新たな装備品の取得といった施策を推進しています。どんなに優れた構想も、それを実現しないことには意味がありません。陸上自衛隊の将来構想を踏まえながら、どうすれば事業が円滑に進むのかを常に意識し、自衛官との二人三脚のもとで、一つひとつの政策に落とし込むことを心掛けています。

防衛力整備とは、我が国の防衛構想に具体的な形を与えることにほかなりません。新たな課題に挑戦しながら、一緒に明日の防衛体制を考えましょう!

整備計画局防衛計画課
業務計画第1班長
2010年入省 事務系

日本の防衛のために 真に戦える自衛隊の 将来像を描く



日本を守る「砦」を造る 防衛施設のあるべき姿の 飽くなき追求



我が国の防衛に必要な不可欠な防衛施設。施設計画課では、防衛施設の整備計画などを担っており、私は現在、駐屯地開設を主に担当しています。近年では、与那国島、宮古島、奄美大島に駐屯地を開設させ、石垣島において、令和4年度末の開設に向けた工事を進めています。駐屯地は、有事の際の基盤となるだけでなく、隊員一人ひとりの生活・活動が完結できる街でもあります。そのため、駐屯地開設とは、持続性・強靱性を持った一つの街を作り上げることを意味します。また、防衛力整備の実現のため、早期の完成が求められます。さらに、防衛省としては、防衛施設の整備において、周辺環境との調和を自ら課しています。そこで、建設機材の運用や工法一つひとつといった極めて詳細な工程を検討し、工程短縮を図るだけでなく、貴重水生昆虫保護のためのビオトープ創出など、周辺環境にも配慮して建設工事を進めています。防衛施設は、特徴に合わせてオーダーメイドで作りに上げていくため、多くの関係者の協力が必要です。また、工事完成までは、決して気を抜くことができません。しかし、防衛施設が完成し、駐屯地に看板が掛けられたときの達成感は何ものにも代えがたいです。防衛省では防衛力整備計画において、施設の強靱化に関する費用として5年間で約4兆円を見込んでおり、防衛施設への投資を今まで以上に加速させていきます。一緒に防衛施設の整備に取り組んでみませんか。

整備計画局施設計画課
政策1班防衛部員
2014年入省 技術系(施設系)

自衛隊や在日米軍の 安定的な運用のために

多種多様な施策を実施し、
国民や地域社会の理解と協力を得るための地道な努力を積み重ねることで、
自衛隊や在日米軍の円滑な運用を可能にします。

防衛施設と 周辺地域との 調和

- 施設の設置や航空機の運用などに伴う騒音などの障害の防止、軽減、緩和
- 地域住民の生活環境の安定や向上に資する事業等への助成

地域 コミュニティ との連携

- 日頃からの積極的な広報・説明
- 地方公共団体、警察・消防等の関係機関との連携の強化

在日米軍の 駐留を支える ための施策の 実施

- 米軍再編事業の着実な実施
- 在日米軍で勤務する従業員の労務管理
- 在日米軍施設の整備
- 訓練や訓練移転等の円滑な実施

環境問題・ 気候変動問題 への対応

- 自衛隊・在日米軍に起因する環境問題と地域社会との調和
- 気候変動対策と防衛力強化の両立

国家公務員として働く上で大切なことをか
つての上司はこう教えてくれました。

「責任感と想像力。言い換えれば、「日本」
という実際に見ることができないもの、約
1億2000万人の「日本人」というほとん
どに会うことができない人々に思いを巡ら
し、それを自分のこととして引き受けてい
くことへの覚悟です。」

全国には安全保障の土台である基地や駐屯
地があり、その隣には人々の暮らしがありま
す。新たな基地の整備や訓練の実施が毎日
の生活にどう影響するのか人々の思いは切
実です。私たちはその思いを受け止め、不安
を解消するために何ができるのか、地域社
会の一員としてまちの発展にどう貢献でき
るのか、日々知恵を絞っています。

地方協力局地域社会協力総括課
調整係長
2018年入省 事務系



平和な暮らしを 守るために

地域社会との 調和のために



防衛施設の安定的な運用には、地域の
方々のご理解とご協力が何より重要です。
現在、私が働いている部署では、防衛施設
が所在することによる周辺住民の生活や
事業活動に及ぼす影響を軽減するため
に、地方公共団体が行う公園、道路、体育
館、消防施設などの生活関連施設や農林
漁業施設などの事業経営の安定に寄与す
る施設の整備に対し、助成を行っています。
地方公共団体が安全保障政策への理
解促進や地域の皆様の生活環境改善のた
めに行う事業に協力しながら、地域社会と
の連携をより強固にするべく、日々積極的
に業務に取り組んでいます。

地方協力局地域社会協力総括課
施設対策班係員
2019年入省 技術系(施設系)

私が所属するグアム移転事業室では、昨今の急速な安全保障
環境の変化に対する抑止力を維持しながら、沖縄の負担軽減
を進めるべく、在沖米海兵隊員をグアムへ移転するための諸
政策を行っています。私の現在の仕事は、財務省への予算要
求を含む資金や工事の管理に関して防衛省内外のみならず
米側と調整するといった事業のマネジメントがメインです。
たまたまですが、私が当室で勤務するのは10年ぶり二度目
です。その中で、紆余曲折を経つつ、2022年1月の「2+2」
会議で、2024年の移転開始を日米の間僚級で確認したことは、
とても感慨深いです。グアム移転事業というのは日本側が
米側に資金を提供するほか、米国防衛省においても予算を獲得
して、新たに街を作るといったいいような大きな事業を両国で
完成させる仕組みになっています。文化や背景、制度が違う相
手と意思疎通して、この事業をやり遂げるのは簡単ではありません。
今、グアムのジャングルだった土地にはたくさんの建
物が立ち始めています。その光景にも圧倒されますが、長い
間、日米両国の関係者が一つひとつ積み重ねた結果だとい
うことをひしひしと感じており、そうした長い時間の重みを感じ
ることができる事業に携われることもこの仕事のやりがいだ
と思います。こうした対米調整、地元調整において、信頼や理
解を得るには長い時間がかかり、その時一瞬で解決されるも
のではないです。相手への合理的説明は当然のこととして、
相手の背景を理解しながら、調整を続けていく忍耐力が必要
です。時には相手との関係を深めるため、仕事が終わった後、
バーで友好を深めるといったコミュニケーションをとることも
あります。もちろん一筋縄ではいきませんが、そうした一つひ
とつの理解を積み重ねることが大切だと感じています。
急速に変化する安全保障環境の中で、私たちの暮らしを維持
するためには、こうした日々の地道な調整が礎となり不可欠だ
ということを念頭に置きつつ日々の業務に取り組んでいます。

地方協力局在日米軍協力課グアム移転事業室
防衛部員
2008年入省 技術系(施設系)

米海兵隊のグアム移転 沖縄の基地負担軽減と グアム移転開始に向けて



戦略的な装備政策の展開

防衛生産・技術基盤の強化、新たな外交ツールとしての諸外国との防衛装備・技術協力の推進や、装備調達最適化など、自由な発想と多角的な視野で装備政策を企画立案し、実施します。

防衛生産基盤の強化

- 防衛事業の魅力化
- 企業の競争力・技術力の維持・強化
- 強靱なサプライチェーンの構築

防衛技術基盤の強化

- 集中的な研究開発投資
- 研究開発の高速化
- 革新的な民生先端技術の発掘・育成・取込

諸外国との防衛装備・技術協力

- 防衛装備移転の推進
- 国際共同研究開発

装備調達の最適化

- プロジェクト管理
- 取得制度の見直し

我が国を取り巻く安全保障環境がこれまで以上に急速に厳しさを増す中、自衛隊は高度な装備品を保有し適切に運用することで初めて任務を遂行できます。装備品のライフサイクル全てを担う防衛産業なくしては我が国の防衛力は発揮し得ないことを踏まえれば、防衛産業は防衛力そのものです。私の所属する装備政策課では、その防衛産業の基盤を維持・強化すべく様々な取組を行っています。

2年目の職員である私は、関係省庁や様々な民間企業、さらには米国や豪州といった国々との総合調整を行っています。我が国の防衛産業をあるべき理想の姿に近づけるため、官民・国外の関係者をつなぐ架け橋として日夜奮闘しています。

防衛装備庁装備政策部装備政策課
係員
2021年入省 技術系(装備系)



我が国の防衛産業の
官民・国外関係者を
つなぐ「架け橋」として

私は、2003年に装備系の技官として採用され、これまで防衛装備庁を中心に約20年間働いてきました。前半の10年は、調達、国の民事訴訟、防衛力整備といった仕事に携わってきました。ここでは、技官である自分が行政官として生きていくための基本的な知識や経験を積み重ねることができたと考えています。

後半の10年は、これらの積み重ねをいかして、装備品の海外移転やプロジェクト管理に関する仕事に邁進してきました。とにかくたくさんのプロジェクトをこなしてきたというのが感想です。

装備品の海外移転については、海自練習機TC-90のフィリピン海軍への移転及び教育支援、陸自ヘリの部品のフィリピン空軍への移転、61式戦車のヨルダンへの展示用途での貸付、日本製警戒管制レーダーのフィリピン空軍への移転等のプロジェクトにおいて、チームの中で中心的な役割を担ってきました。

一方、装備品のプロジェクト管理については、トイレットペーパーから航空機、人工衛星まで、大小様々な装備品に関する仕事を担当してきました(まるで総合社社のような感じです)。現在は、プロジェクトマネージャーとして、12式地对艦誘導弾能力向上型の開発・量産事業のプロジェクト管理を担当しています。プロジェクトをより良いものとするため、プライム企業に加えて、主要なベンダー企業を計20回以上訪問し、開発設計や製造技術の技術者と製造上の課題や改善に関する議論を交わしてきました。具体的な成果が出るのは少し先になると思いますが、これらの議論を通じて、様々な施策を実現可能な形で進めているところです。

装備系技官は、防衛装備庁に軸足を置き、装備品に関連する業務を中心に働いていく職種です。大小様々なプロジェクトの中心的な立場となることも可能です。様々な職種がある中で、主体的に仕事に取り組んでいきたいと考えている方々に特にお勧めします。

防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官
(誘導武器・統合装備担当)付
事業計画調整官
2003年入省 技術系(装備系)

装備品に関する
プロジェクトを
直接支えるために



抑止力の中核をなす
装備品の最先端で働く



装備政策課は、防衛装備庁の「司令塔」として、装備品に関する総合的な政策の企画及び立案を担当する部署です。私は総括班員として、課内のみならず防衛装備庁全体での業務が円滑に進むよう省内外の様々な関係者の間に立って、国会業務をはじめとする連絡調整などを行っています。時には1年目職員ながらも省内の重要会議に出席したり、企業を訪問して視察・意見交換を行う機会もありました。富士総合火力演習をきっかけに、優れた装備品こそが抑止力の中核をなすと考え防衛省を志した私としては、装備政策課の一員として防衛装備行政の最先端で仕事をすることに、責任を感じるとともに大きなやりがいも感じています。

防衛装備庁装備政策部装備政策課
係員
2022年入省 事務系

職員からのメッセージ

部隊勤務 / 北海道



私は今、北海道所在部隊の訓練や司令部の会議等を研修するとともに、日々を札幌駐屯地で過ごし、陸上自衛隊の文化や思考法の中に身を置いています。弟と同じような年齢の新隊員の射撃音が鼓膜を震わせたとき、任務・訓練から帰隊する集団の中に親子を見つけようと背伸びする隊員のご家族の姿を見たとき、市ヶ谷では見えなかった、自分が背負い、支えるべき人たちの顔が像を結びました。「歩兵の半長靴の先が国境線である」。国民と国土を守るため、戦車、火砲、航空機をはじめ陸上自衛隊のあらゆる人員と装備が普通科(歩兵)の一步に全てをかけます。我々事務官も、政策、制度や予算を武器に、彼らの一步に人生をかけなければなりません。

陸上自衛隊北部方面總監部総務部外連絡協力室
企画調整専門官
2020年入省 事務系

他省庁 / 福岡県警察



現在、私は福岡県警察において、県内の交通指導取締りに係る企画や飲酒運転、暴走族の捜査などを行っています。防衛省と警察では、国防と治安とで任務は異なりますが、どちらも国・国民の安全を守るという目的は同じです。悲惨な事故の犠牲者を少しでも減らすために、どのような施策を講じれば、事故抑止や人々の安全・安心につながるのかを日々考えながら仕事に取り組んでいます。現場に近いからこそ、現場の警察官の負担を適切に考えられまし、講じた施策の効果も見えやすく、やりがいを感じています。同じ実力部隊という現場を持つからこそ、警察で得られた経験が防衛省での業務においても生きてくると確信しています。

福岡県警察本部交通部交通指導課
交通指導課長
2015年入省 事務系

他省庁 / NISC



ITの急速な発展と普及に伴い、ITは社会基盤として現代の国民生活に不可欠なものになりました。通信、電子決済など様々なインフラサービスは、サイバー攻撃や自然災害等に常に備え、障害発生時には迅速に復旧することが求められます。私は、内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)で、このような重要インフラサービスを安全に持続的に提供するために、関係省庁や事業者等との情報共有体制、防護基盤の強化などの取組を行っています。インフラ分野の視点でサイバーに関わることは、防衛省ではできない経験であり、他省庁だけでなく民間出向者も多い環境で、多様な知識が得られる貴重な日々を過ごしています。

内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
主査
2017年入省 技術系(装備系)

留学 / インペリアルカレッジロンドン



私は、サイバー・フィジカル領域のセキュリティ分野で有数のインペリアルカレッジロンドンにおいて、重要インフラにおける抗たん性やリスクマネジメントの在り方について学んでいます。これらは、効果的な抑止力、ひいては防衛力の本質を体系立てて論じる上での道標になるものと考えています。海外留学は、バックグラウンドの異なる学生との議論を通じて日本を相対化し、多様な考え方や切り口に触れることで多角的に考える力を養うことに意義があると思います。数年間の実務経験を経て、より具体的なイメージや使命感を持ちながら勉強できる今、国家安全保障というインフラを創り続ける防衛省の責務に貢献すべく、日々努力しています。

大臣官房秘書課付
2016年入省 技術系(施設系)

留学 / ジョージタウン大学



私は今、米国ワシントンDCのジョージタウン大学で国際関係を学んでいます。土地柄ゆえ、現役政府職員の教授・学友に囲まれており、安全保障環境の変化が即座に授業内容に反映され、刺激のかつ実務に基づく学びを得ています。また学業の傍ら、シンクタンクでインターンをしており、アカデミアと政策が融合する第一線で日米同盟の研究を行っています。私は留学前、日米防衛協力を担当する課にいたのですが、実際に渡米してみると、米国土の広さ、国民の多様さ、それに伴う政治の複雑さに驚かされます。米国含め他国との協力が不可欠な時代だからこそ、日米同盟・東アジア情勢が米国の安全保障政策においてどれほど重要なのか、米国内でどれほどの意見の分裂があるのかを実際に米国民と共に学び働くことで、真摯に理解することこそ私が遠く離れたこの地で学ぶ意義だと考えています。教室で白熱した議論をしているときも、友人たちとワイングラスを傾けているときも、その一瞬一瞬が今後の職業人生の資となるよう意識を研ぎ澄ませたいと思っています。

大臣官房秘書課付
2017年入省 事務系

留学 / 豪州国防大学



豪州国防大学に留学する機会を得、現在は東南アジア・太平洋島嶼国を中心とする留学生(北東/南アジア等からも少々)のためのコースに在籍しています。同級生の顔ぶれと共に、豪州での生活は、日本がその一員である「インド太平洋地域」をまさに「体感」させてくれます。多文化・多民族国家の現在、ヴィクトリア様式の建物に残るゴールドラッシュの名残…。17年ぶりの留学ではありますが、豪州の広大な自然も楽しみつつ、21年間の防衛省勤務で培った知見・問題意識を糧に、「特別な戦略的パートナー」である豪州はもとより、「インド太平洋地域」全般について、戦略的観点からの理解を深めたいと思います。

大臣官房秘書課付
防衛部員
2001年入省 事務系

キャリアアップシステム

入省1・2年目は、本省内部部局等において行政官としての実務を学び、3年目は自衛隊の司令部等で勤務することで、自衛隊の活動の現場を学びます。その後、主任・係長を経て、他省庁の課長補佐に相当する「防衛部員」となり、自らのイニシアチブで政策の企画・立案を行うことになります。もちろん、海外留学や出向などを通じて多様な経験を積むことが可能です。



整備計画局防衛計画課
防衛力整備計画班
防衛部員
2017年入省 事務系

部員になると、組織の中核として、主体的に企画立案を行うことになります。相当程度の裁量権が与えられ、それに伴う責任は大きいですが、担当を持つというやりがいも味わえるのが部員の醍醐味です。私はミサイル防衛の整備を担当しています。ミサイルに関する技術が、急速なスピードで変化・進化する中、我が国の迎撃体制に妥協は許されません。防衛力の最適な設計を自衛官とともに徹底的に考え、とりまとめ、予算化し、その実現を図る。一見すると華々しく見えますが、理想的な防衛力を整備するには、財源や人的リソースの現実的な制約が存在します。部員に求められる水準は高いですが、我が国の平和を守るという思いを胸に秘め、日々奔走しています。



防衛政策局戦略企画課
前任部員
2006年入省 事務系

前任部員というポジションは、プレイヤーからマネージャーへの転換点とも言えます。個別の案件を担当するのではなく、課長を補佐しての組織のマネジメントや対外的な説明などを担うこととなり、より大局的な視野が求められるようになります。戦略企画課は、中長期的な見地からの防衛政策立案を担っており、変化する安全保障環境の中で、新たな防衛の在り方を開拓・創造し、防衛省・自衛隊そして日本を強くすることをミッションに掲げています。こうした大きなミッションを実現するため、これまでの延長線にとらわれない新たな発想が生まれやすい組織にしていきたいと考えているところです。



防衛政策局
参事官
2000年入省 事務系

ウクライナ侵略でも垣間見えるように、安全保障には自国の防衛努力のみならず、友好国との連携や協力の確保も大事です。当官では、東南アジア、中東、太平洋島嶼国などの国々に対し、ハイレベルでの政策協議のほか、能力構築支援、訓練、装備など防衛省ならではの政策ツールも活用して関係強化に邁進しています。国際情勢の変化を体感しつつ、次々に生じる新たな課題に取り組む毎日ですが、私の立場では、各自衛隊を含む省内の力を総合し、他省庁や米国・豪州などとも協力しながら、効果的に関係強化が実現できるよう留意しています。一筋縄ではいかない課題を楽しめるような、チャレンジ精神にあふれる皆さんの参加をお待ちしています。



人事教育局 人材育成課
総括班/企画調整班
係員
2022年入省 事務系

1年目は、課内の取りまとめを行う班の係員として国会対応、他課や他省庁との業務調整を行い、今後総合職としてキャリアを積む上での基礎を学びます。人材育成課は、厳しい安全保障環境を踏まえ、自衛官の募集や防衛大学校等の教育を通じた自衛官の育成、即ち人的側面からの防衛力整備を担っています。私は課内の仕事が円滑に進むよう、資料作成や調査等をサポートしながら、防衛省・自衛隊における政策を学んでいます。日々新しい仕事に挑戦し、1年目ながら政策立案プロセスに携わることもあり、大変ではありますが、先輩方に教えていただきながら、「日本と世界の両方に目を向けて仕事を」という防衛省ならではの環境で充実した毎日を送っています。



航空総隊司令部総務部総務課
企画調整専門官
2020年入省 事務系

3年目では総合職係員の総仕上げとして様々な研修を受けます。まず防衛研究所で安全保障理論を学びます。実務者が理論を学ぶことは現実の課題を体系的に理解し対処する上で重要です。その後半年間、陸・海・空自衛隊の司令部に勤務し、市ヶ谷では見ることのできない安全保障の最前線を体感します。私は戦闘機・高射・救難・警戒管制等の部隊を指揮する航空総隊司令部で勤務しております。航空総隊司令部はミサイル防衛等に代表される日米同盟の最前線でもあり、自衛官や米軍人から直接お話を伺う中で学ぶことは多く、非常に有意義な日々を送っています。特に具体的な部隊運用について理解を深めることは、今後内局で政策立案を行う上で重要な意味を持ちます。現場のニーズに思いをはせる、想像力のある防衛官僚になるため、3年目の経験を糧に今後も自己研鑽を続けます。



統合幕僚監部首席参事官付
総括班長
2012年入省 事務系

私が所属する統合幕僚監部首席参事官付は、自衛隊の実際の部隊運用に関し、運用と政策二つのすり合わせや、対外的な説明などを担います。その中で、総括班長は、課の業務全体を見ながら、主として国会など、対外的な説明・情報発信に関する業務について、課内をまとめます。我が国を取り巻く厳しい安全保障環境や、それに対する自衛隊の活動について、国内外に迅速・的確に情報発信し、理解を得る。その積み重ねが、明日の安全保障環境を作ります。判断の一つひとつが将来の日本の行く末につながっていく、そうした業務に、ほかの誰でもなく、自らが取り組んでいることに、緊張感と大きなやりがいを感じています。

事務系 | 採用実績

試験	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
総合職院卒者	1	4	3	1	0
総合職大卒程度	14	12	15	13	14
合計(うち女性)	15(6)	16(6)	18(7)	14(6)	14(5)

※2023年は採用見込み

『働き方にも持続可能性を』

防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官(宇宙・地上装備担当)付
通信調整班長
2012年入省 技術系(装備系)
職員F

年々、防衛省でも「働き方改革」が定着してきているように感じる。

職員F 私とGさんは2012年入省の同期ですよね。

職員G そうですね。入省して10年も経過しました。1~2年目の頃は時間を忘れるくらい仕事に熱中していて、今のように自分が終業時間を気にしながら働く姿なんて想像もしていませんでした。この10年間で随分自分自身の働き方が変わりました。

職員F 私も同じです(笑)。ところで、この10年の間に防衛省でも働き方改革が大きく進み、最近では定着しつつありますね。Gさんが産休・育休を取得したのはいつ頃でしたか？

職員G 入省3年目の2014年に第一子を出産、5年目の2016年に第二子を出産したときですね。それぞれ約1年間の産休・育休を取得しました。ちょうど働き方改革という言葉が浸透し始めた頃でしたね。

職員F Fさんも育休を取ったと聞きましたが、

職員G ええ。入省6年目の2017年に第一子、入省9年目の2020年に第二子が生まれて、それぞれ約5か月間、育休を取っています。

職員F それは素晴らしい!長く職場を離れることに不安はなかったですか？

職員G もちろん、不安はありましたが、当時の上司に相談したところ、「これからパパになる男性のためにもぜひできる限り長く取得して」と背中を押してもらえたので、安心して5か月間、子育てに専念することができました。「第一号」っていうと大きいですね、当時はまだ珍しかったですね(笑)。出産・子育ては、長い人生のうちで何度も経験できるものではありませんし、私自身子育てはしっかりと関わりたいので、育休を取得して本当に良かったと思っています。我が家も妻が働いているので、子育てのスキルの意味でも早い時期から子育てをしていたことは、妻が産休・育休から仕事に戻った後の生活に役立つかなと感じています。

出産後の働き方

職員F 防衛省では産休・育休に加えて、復帰した後も子供の看護のための特別休暇や年次休暇を時間単位で取得できるのでとても便利です。私は子供が急に熱を出して病院に連れていかなければならない場合などに時間単位での休暇をよく使っています。あとは、フレックスタイム制のように勤務時間を柔軟に割り振れる制度もあります。Gさんは産休・育休後の職場復帰にあたって何かこういった制度を使いましたか？

職員G 第一子の育休から復帰した当初は私も子育てというものが全く初めての経験だったので、時間的にも体力的にも自分が無理せず続けられるようにと、育児時間という制度を使って1時間ほど勤務時間を短くさせてもらっていました。ただ、復帰後の生活が軌道に乗ってくると、むしろ「もっとできる」「もっとチャレンジしてみたい」という思いになることの方が多く、第二子の育休から復帰した際には、勤務時間をフルタイムに戻して、繁忙期は夫と家事を分担しながら残業したり、国内・海外関係なく出張にも行ったりするようになりました。最近はテレワーク環境が整ってきたおかげでさらに柔軟な働き方ができるようになってきて、ますます仕事の幅が広がってきているように感じます。

職員F ライフステージに合わせて自分が無理なく続けられる働き方、やりがいを持って続けられる働き方を見つけてきたという感じ

ですね。

職員G そうですね。家族との時間はしっかり確保した上で、仕事でもどんどんチャレンジしていきたいという欲張りな姿勢で、常に自分にとって最適なバランスを追い求めています。

職員F 私も子供が生まれてからは、基本的に残業はすく減らすスタイルで働いていて、いかに効率良く集中して仕事に取り組むか、時間とタスクの管理を常に意識しています。

職員G 仕事の優先順位付けて本当に大事ですよね。毎朝意識しています。あと、私は上司や同僚と互いにサポートし合えるように、日頃から何でも一人で抱え込まず周囲とこまめに情報共有するようにしています。Fさんはどうしても残業ができない日や子供の体調不良などで急に休まなければならない日などに備えて、何か工夫していることはありますか？

職員F そうですね、子育てをしていると急に職場に行けなくなることも多々ありますので、基本的には常にテレワークができるように準備しています。防衛省でもここ数年で一気にテレワーク環境が整ったことから、最大限活用しています。もちろん、職場にいない



とやりづらいこともあります。そこはGさんのように班のメンバーで互いに補完し合えるよう工夫ですね。ところで、Gさんは子育てをしながら海外留学も経験していますよね。

職員G 防衛省の留学制度で2019年から1年間、イギリスの大学院に留学し、修士号を取得しました。その間、家族は日本に残って夫が一人で仕事をしながら子育てをしてくれました。私が帰国してから今度は夫が入れ替わりでイギリスに留学しており、私も1年間、一人で子育てをしました。もちろん、家族帯同で行くという選択肢もありましたが、留学する意味や子供たちの生活のことなど諸々を考慮した結果、夫婦それぞれが単身で行くことを決断しました。

職員F 夫婦で互いにキャリアを尊重し合える関係性なのですね。我が家もまさにそうで、私の仕事と妻の仕事の重さに差異はないと思っています。ですので、家事も極力分担していて、例えば朝の家事は私の担当というわけで毎朝朝食にオムレツを作り、子供を保育園に送り届けてから出勤しています(笑)。

唯一無二の仕事に自分らしく挑んでいけることが防衛省の魅力。

職員F 最近は、世代・男女問わず仕事や働き方に対する考え方が多様化しているように思いますが、私自身は働き方にも持続可能性が大切だと考えています。社会人として働

いていく時間はとても長く、当然その間に結婚・出産・子育てといった重要なライフイベントがあり、ライフステージも変化します。こういった変化に柔軟に対応できる働き方を各人が選択できる環境でなければ続けられないと思います。

職員G 持続可能性、たしかに重要です。あと、働き方って仕事に対するモチベーションとも密接に関わっていますよね。私の場合、まさに「ライフ」の充実が「ワーク」の原動力になります。仕事以外のことに没頭する時間って気持ちを切り替えたり、新しいアイデアを生み出したりする上ですごく大事だと思います。また、私にとっては何よりも家族が一番の応援団なので、凹んだときほど家族からパワーをもらっています(笑)。

職員F 最後に、Gさんは学生の皆さんに防衛省で働くことの魅力をどのようなメッセージで伝えたいですか？

職員G まず防衛省の業務って本当に幅広くて、常に新しいことにチャレンジできる環境があるという点を挙げたいと思います。第二子の産休・育休から復帰してすぐに防衛装備庁で装備協力を担当していたのですが、2014年に策定されたばかりの防衛装備移転三原則に基づき、まさに「オールジャパン」で装備品の海外移転を実現するために奮闘し、2年の間にフィリピンに警戒管制レーダーを移転する話をまとめることができました。前例がない中で常に問題解決能力を試されているような感覚で、もちろん大変なこと

制度の細かな点や両立事例についてさらに詳しく知りたい方はホームページへ



『“ライフ”の充実は、“ワーク”の原動力』

防衛政策局調査課情報運用企画室
企画班長
2012年入省 事務系
職員G

も多かったですが、非常に大きなやりがいを感じていました。

職員F 装備協力の歴史に残る重要プロジェクトですね。実は今、私はGさんが立ち上げたまさにその事業を担当しているのですが、残業もほとんどせずに、それだけの大きな案件を当時まとめあげたのは本当にすごい。

職員G 実は今の部署でも宇宙分野における技術革新をいかにインテリジェンス機能強化に取り込んでいくか、常に頭を悩ませています。どちらも10年前に入省した頃には想像すらできなかった課題ばかりが並んでいますが、安全保障という唯一無二の分野で自分なりに開拓しながら仕事ができるというのは本当にありがたいことです。


職員F そのとおりですね。私も自衛隊で初めての無人機の導入に携わったり、海外への装備品の移転に携わったりと、技術や情勢の変化に合わせた仕事の変化を体感し続けています。入省当時は自衛隊の装備品を海外に移転する仕事に関わるなんて想像もしていなかったですからね。私は技術系の職員ですが、技術の知見を活かす政策の企画立案などに携わることができる防衛省での仕事は唯一無二だと思っています。そして、このようなやりがいのある仕事に、私たちのようにワークライフバランスを両立しながら挑んでいける環境があることも、防衛省で働く大きな魅力だと感じています。


ワークライフバランス
出産・育児との両立ワークライフバランス
出産・育児との両立


若手職員に聞くQ&A



Q 防衛省を志望した理由、入省の決め手は何ですか？


 我が国の独立と平和を守るという崇高な任務に強く関心を持ち、防衛省を志望しました。幹部自衛官候補生としての入隊も考えましたが、現場よりも中央で防衛力の根幹に携わりたいと考え、事務官を志望しました。


A  未だ見ぬ世界に飛び出したい。でも自分がこれまで専攻してきたことも活かしたい。そんな欲張りを叶えてくれたのが防衛省の技術系総合職という仕事でした。安全保障の世界でも、土木工学のバックグラウンドを強みにして生きていけると思い入省しました。

 元々国防に関心があり、漠然と防衛に携わる仕事を希望していました。民間企業の道も考えましたが、それ以上に直接国防に携われて、技術的なニーズの最先端をこの目で見る事ができる仕事をしたいという思いから防衛省を志望致しました。


Q 防衛省職員としてどのような目標を持って成長していきたいですか？


 どの職務においても、この国を守る職務の一端を担っていると自負できるよう心掛けて仕事をしていきたいと思っています。

A  やるべき仕事を全うするのはもちろんのこと、防衛省職員として、国民に安心感を与えられるような人になりたいと思います。この人に任せていけば安心だ、と思ってもらえるように、コツコツ信頼を積み重ねていきたいです。


 大きく安全保障環境が変わる中で、一つの考え方にこだわることなく、日々アップデートしていき、多角的な視点で物事を見られるようになるのが今後の目標です。


Q 防衛省に入省して良かったこと、防衛省職員として誇りに思うことは何ですか？

 どの部署でも安全保障に関する業務を行っているため、異動しても様々な角度から常に自分の興味関心が高い分野に関わることができていることです。

A  ほかでは関われない大きなプロジェクトに最前線で携わり、真正面から平和と向き合えることにやりがいを感じます。また、目の前の仕事で国の平和や安全につながるということを実感でき、非常に誇りに思います。

Q 入省1~2年目で感じたやりがいを教えてください。

 今年の夏に発行された防衛白書には、昨年の部署で自分が執筆した箇所があり、冊子として出来上がったものが手元にやってきたときは嬉しかったですし、やりがいを感じました。

A  日米協議に参加させていただいたことです。背景事情が全く異なる2国が円滑にコミュニケーションをとるためには入念な準備が必要なんだと実感するとともに、日頃の業務がどのように協議につながっていくのか理解することができました。



地方協力局総務課
係員 2021年入省 事務系





整備計画局防衛計画課
業務計画第2班係員 2021年入省 事務系




地方協力局在日米軍協力課グアム移転事業室
係員 2022年入省 技術系(施設系)


Q 現在の所属と1日の仕事の流れを教えてください。


 海上自衛隊の防衛力整備を担当する防衛計画課業務計画第2班の係員として、班への照会事項の取り回し、海上自衛隊の部隊編成に関連する資料作成等を実施しています。会議漬けの日もあれば、ずっと作業の日もあり、1日の流れは様々です。

A  宇宙、サイバー、ミサイル防空等を取り扱う課で、私は課内の取りまとめや庶務業務を行っています。朝は10時前に登庁し、昼休みは同期や先輩とランチに行きます。隣のホテルで月1で開催されるスイーツバイキングが最近の楽しみです！


 現在は大臣官房文書課に所属しています。名前からだけでは何をやっているのかわかり辛いですが、省内の取りまとめ、省外との窓口役です。基本的には毎日朝ドラを見てから出勤しています。時間があるときには同期と一緒に昼ご飯を食べたりしています。


Q 入省後に感じたギャップはありましたか？

 思っていた以上に新人のサポートがしっかりしています。世代や職種関係なく業務内外の悩みに答えてくれる優しい方が多く、わからないことは相談や質問しやすい雰囲気です。


A  もっと固い雰囲気なのかと思いましたが、女性は華やかな服装であったり、男性も柄付きのシャツや目立つ色のネクタイをしている方もいて節度を持ってオシャレを楽しんでいる人が多く、良い意味でギャップがありました。


Q 休日はどのようにして過ごしていますか？

 リフレッシュになるので、趣味の旅行や登山に行ったり、今年から始めた津軽三味線の練習をしたりしています。また、仕事をしていて気になったり、知らなかったことを時間がある休日に調べています。

A  休日はフルで楽しみたいので、平日よりもずっと寝起きが良いです。友人や同期と遊びに出かけたり、1日中家にこもってゲームしたり、自由に過ごしています。

Q 大学時代に打ち込んでいたことを教えてください。

 所属していた軽音楽サークルと研究に打ち込んでいました。ライブをした後、自分の身長くらいある大きなシンセサイザーを持ったまま大学に直行して、そのまま深夜まで研究ということもたまにありました。

A  学部時代は弓道部に所属していました。弓道を通して培ったメンタルは今でも役に立っていると思います。



地方協力局総務課
係員 2022年入省 技術系(施設系)



防衛政策局戦略企画課
総括班係員 2022年入省 技術系(装備系)



大臣官房文書課
係員 2022年入省 技術系(装備系)

採用チームから 皆さんへ

国家安全保障は、あらゆる国民活動の基盤です。

今ある当たり前前の社会を能動的に守ることの意義は揺らぐことはありません。

防衛省は、価値観が相対化する現代においても、

決して揺らぐことのない使命を担っているとと言えるでしょう。

これは、何より自分自身に誇れる仕事であることに直結するものです。

国の在り方を考える、それが仕事に直結する。

居酒屋談義で終わらせず、実際に安全保障を担い、

社会を変えていくことが、防衛省には求められています。

また、防衛省のフィールドは、かつてないほど急速に拡大しています。

歴史、哲学、技術、あらゆる英知を結集して、

安全保障上の課題に挑むことが求められています。

個人として、仕事として、大きな成長が見込める防衛省で、

持てる力を最大限発揮してみませんか。

Recruitment team

採用情報は
こちらへ



役技装 割官備系 の

戦略的な「装備政策」を展開する

装備系技官は、技術的な知見を背景に、装備品に係る各種政策の企画・立案などを担っています。様々な知識を柔軟に活用して、装備品の取得、国内生産技術基盤の維持・強化、契約制度の見直し、国際装備協力などに携わります。



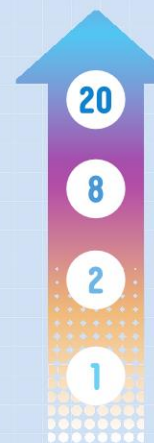
装備品の取得
装備品の調達、プロジェクト管理



国際装備協力
装備品の海外移転、国際共同開発・生産



生産・技術基盤
国内生産・技術基盤の維持・強化



- 課長・室長**
(本省、防衛装備庁)
※管理職として、より責任のある立場へ
- 部員**
(本省、防衛装備庁)
※政策の企画・立案の中心
- 係員**
(防衛装備庁)
※装備品に関する政策や実務を担当
- 係員**
(本省)
※政策立案や危機管理に関する行政実務を経験

装備系職員のキャリアパス

入省1年目は、本省内部部局等において行政官としての実務を経験します。2年目以降、防衛装備庁等において装備品に関する政策や専門的な知識を活用する実務経験を積みながら行政感覚を養います。その後、他省庁の課長補佐に相当する「防衛部員」となり、自らのイニシアチブで政策の企画・立案を行うことになります。海外・国内留学や出向など多様な経験を積むことが可能です。

役技施 割官設系 の

平和という「究極のインフラ(社会基盤)」を整備する

駐屯地・港湾・飛行場等の「防衛施設」は、自衛隊の活動基盤であり、国民の当たり前の毎日を明日につなぐ「最後の砦」として必須です。施設系技官は、土木・建築・機械・電気などの工学系出身の職員が、技術的知見を活かして、強靱な防衛施設の確実な整備(建設)や安定的な運用に必要な政策の企画・立案等を行っています。



防衛施設の整備(建設)
宮古島駐屯地
駐屯地の新設
実爆実験
抗たん性の向上



周辺地域との調和
自治体への防衛政策の説明



在日米軍の再編
ロウワー・プラザ地区
緑地公園(イメージ図)
地元負担の軽減



- 課長・室長**
(本省/地方防衛局部長/大使館)
※管理職として、より責任のある立場へ
- 部員**
(本省)
※政策の企画・立案の中心
- 係員**
(地方防衛局)
※防衛施設の建設工事に係る専門的技術力を涵養
- 係員**
(本省)
※政策立案や危機管理に関する行政実務を経験

施設系職員のキャリアパス

入省1年目は、本省内部部局等において行政官としての実務を経験します。2年目以降、地方防衛局等の勤務を交えながら専門的技術力と行政感覚をバランス良く培います。その後、他省庁の課長補佐に相当する「防衛部員」となり、自らのイニシアチブで政策の企画・立案を行うことになります。また、留学や出向はもちろん、在外公館勤務など多様な経験を積むことが可能です。

装備系の採用実績(2020年から採用枠を拡大し、工学区分外からも幅広く採用しています)

試験	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
総合職院卒者	3	5	2	3	1
総合職大卒程度	1	0	2	1	1
合計(うち女性)	4(3)	5(2)	4(1)	4(1)	2(0)

※2023年は採用見込み



最新の採用実績は
ホームページを
ご確認ください

施設系の採用実績(工学区分からのみ採用しています)

試験	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
総合職院卒者	7	3	2	2	6
総合職大卒程度	0	4	3	4	0
合計(うち女性)	7(1)	7(1)	5(3)	6(0)	6(2)

※2023年は採用見込み

次期戦闘機の開発。
我が国史上、最大規模の開発事業



Electronic Engineering



防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官(航空機担当)付
事業監理官補佐
2013年入省

私は、2035年頃の導入を目指している次期戦闘機の開発プロジェクトに携わっています。将来の我が国の航空優勢において中心的役割を担う次期戦闘機は、最新技術を惜しみなく取り込む、技術的に注目を集める開発事業です。他方で、海外の事例を見てもわかるように、戦闘機の開発事業は、開発期間が長期間であることからスケジュールが見えづらく、また、金額規模も非常に大きなものになる傾向があり、プロジェクト管理の対象として、最もチャレンジングな装備品の一つです。私は、次期戦闘機のプロジェクト管理の一環として、量産、運用維持、廃棄までのライフサイクルにおけるコストの見積、コスト低減策、開発体制の検討などを担当しています。

次期戦闘機は、2022年12月に英国・イタリアと共同開発することを決定しました。共同開発体制の検討など、3か国での協議も頻繁に行って

おり、海外との仕事がこの1年間のうちに着々と増えているのを実感しています。日本・英国・イタリアの3か国の強みを活かし、共同開発を成功させるために、どのような協力関係を作っていくか、さらには、それをどう日本の防衛・航空機産業の発展につなげていくか、日々、上司・同僚と議論しています。

入省して、ちょうど10年が経ちました。この10年間で、我が国の安全保障環境は変わり、防衛省に求められる役割も増えています。次期戦闘機の開発事業のほか、これまで政府専用機の調達、防衛装備庁の立ち上げ、装備品の海外移転、装備品の価格算定などの業務経験を重ねてきました。これまでの業務経験に加え、近年の我が国における経済安全保障の重要性の高まりが相まって、私自身、防衛装備庁への関心が年々強くなっています。

モチベーション高く
ずっと働いていける仕事に
出会いたくて防衛省を志した。

私は就職活動中にいろいろと悩んだ結果、防衛省に入ることを選択しました。大学では化学を専攻していたため、専門性を活かそうと化学メーカーなどの説明会にも参加しました。しかし、モチベーション高く仕事を続けていけそうかと考えたとき、疑問を感じました。そこで改めて自分は何のために働きたいかを考えると、生活の基盤を支えるような仕事をしたいと感じ、それが防衛省の使命と重なっていたこと、行政職でもこれまでに培った体系的な視点を活かせることに官庁訪問を通じて気づき、入省を決めました。現在私が所属する部署は、防衛装備品の早期装備化を推進する省横断的な事業の総括を担って



大臣官房参事官室
防衛産業政策調整係員
2022年入省

若手のうちから活躍できる、
想像以上に
エキサイティングな職場。

学生時代の専攻は航空宇宙工学であり、理系の知識を活かして安全保障の政策立案に携わってみたいと考えたことが入省の大きな理由です。中でも装備行政の分野では、国内防衛産業の支援や個別装備品のプロジェクト管理など、多角的な対応が必要だということを知り、やりがいのある仕事だと感じました。

入省1年目は大臣官房の文書課で防衛省全体に係る業務を学び、2年目に防衛装備庁のプロジェクト管理部に異動。主にオスプレイなど陸上自衛隊が所有する航空機のプロジェクト管理業務に携わりました。3年目の現在は、装備品の調達に関する制度や政策の企画立案を担う調達企画



課で、業務の取りまとめや関連部署との調整などを担当しています。また、公共調達に関する省横断的な施策にも関わり、関係省庁との連絡会議に参加するなど主体的に業務を行っています。

入省3年目で感じる防衛省の魅力は、日本や世界の安全保障に関わる重要な案件に、若手のうちから携われることであり、ほかに類を見ないとてもエキサイティングな職場だと実感しています。今後も多様な部署で実務的な経験を積み、将来的には防衛産業基盤の維持・強化といった政策の企画立案を担っていきたいです。

防衛装備庁調達管理部
調達企画課 調達企画室 係員
2020年入省



Chemistry



Aerospace Engineering



Manufacturing Science

**防衛力強化の鍵を握る、
 装備品の全体最適化に
 省横断的な視点から取り組む。**

自衛隊では、戦闘機や艦船をはじめ様々な装備品が用いられています。現在、私が所属しているプロジェクト管理部では、これら防衛装備品を効率よく取得するために、構想段階から研究・開発段階、量産・配備段階、運用・維持・廃棄段階までライフサイクル全体を通じたトータルマネジメントに取り組んでいます。運用や防衛力整備などの関係組織と連携し、省横断的な視点から、各装備品のコストやスケジューリングなどを管理し、防衛装備庁の中核を担う組織として、最適な装備品の取得の実現に向けた取組を推進しています。

その中で、装備品の取得業務を総合的、効果的かつ効率的に実施するための方針や制度の企画立案に携わっており、具体的には、こうした取得業務を質的に向上させる取組や特に維持整備に焦点を当てた効率化のための取組などを行っています。

私は今、入省21年目にあたりますが、私自身、技術系職員が関わることが少ない法律の策定に携わった経験があるなど、これまでのキャリアを振り返ってみて感じるのは、装備系技官が活躍する場が年々広がっているということです。我が国を取り巻く安全保障環境はかつてないスピードで変化しており、防衛省・自衛隊が果



たすべき役割はますます大きくなっています。こうした役割を果たしていくためには、能力の高い防衛装備品を十分かつ効率的に確保することが鍵を握ります。このような場面では、防衛産業との良好な関係の維持に努めつつ、装備品の効率的な取得、そしてそれらに関わる政策立案などを行うことが重要となり、さらに進化が求められるなど、装備系技官が挑むべきフィールドは日々拡大しているのです。もちろん、こうした仕事には様々な困難が伴います。しかし、それを乗り越え、成し遂げたときには例えようのない達成感を手にすることができます。

明日の防衛産業を担う。

私が室長を務める防衛産業政策室は、2022年4月に設立されたばかりの新しい部署です。近年、防衛力を支える装備品の重要性はますます高まっています。そして、それらの製造等を担う防衛産業はいわば防衛力そのものであるとされ、その防衛産業の維持・強化が我が国にとって非常に重要な政策となっています。このような政策の企画立案を担うことが我々、防衛産業政策室のミッションであり、防衛関連企業における製造の効率化や、サイバーセキュリティ対策、米軍・米国防衛産業のサプライチェーンへの国内企業参画など、実に様々な政策立案に取り組んでいます。また、将来にわたって安定的なサプライチェーンを構築していくためには、企業の製造工程の効率化のために必要な最新技術の導入や中小企業の新規参入といった支援も大切な政策となります。防衛産業を維持・強化していくためには、イノベーションを引き起こしていくことも重要であり、スタートアップ企業の参入支援といった施策も進めています。

私はこれまで、装備行政の下流から上流へとステップを踏みながら多様なキャリアを積みしてきました。しかし、自分が入省した頃を振り返ると、現在のように装備品や防衛産業の重要性が高まるとは想像もしていませんでした。その重要性の高まりとともに、装備系技官が若いうち



から政策立案に携われるチャンスがますます増えてきています。学生時代に学んできた理系の知識が様々なシーンで活かせることは言うまでもありません。私たちが企画立案するのはほとんどが前例のない政策であり、それだけに困難もたくさんありますが、それら乗り越えた際のやりがいには、とても大きなものがあります。理系の知見を活かし、装備政策を立案するというスケールの大きな仕事にぜひチャレンジしてほしいです。

防衛装備庁装備政策部
 装備政策課防衛産業政策室
 室長
 1996年入省

防衛装備庁プロジェクト管理部
 事業計画官付企画室
 室長
 2002年入省

Industrial Engineering



沖縄で働く



今年新規採用の職員がお誕生日を迎え、設備課の女性職員が一斉集合です。左端の先輩は電気の担当ですが、わからないことだらけの私たちがいつも助けてくれる、心強い先輩です。



鍾乳洞の中です。沖縄には、行ってみたい場所がまだまだたくさんあります。



沖縄にはいたるところにシーサーがあります。これは写真にヒントがあるから、どこかわかりますね。入口での記念撮影です。



総合施設系の同期が集まってランチです。右端が土木課職員、その隣が建築課職員。彼らも初めての沖縄暮らしを楽しんでいるようです。



沖縄と言えば海、ですが少し曇り気味で風も強く前髪が…。この後、少し歩いてカフェでお茶を過ごしました。



沖縄県民な私たち

初めて暮らす場所。新しい生活を楽しむ。
沖縄に観光で来たことはあっても、「県民」として生活するのは初めてです。仕事は忙しいけれど、24時間365日それだけに費やすわけにはいきません!!
せっかくの機会を活かそうと、各自、休みの日は思い思いにオフを過ごしていますが、時には、同僚たちと一緒に遊んだり、プチ旅行を楽しんだりもしています。沖縄の空気を吸い、海の音を聞き、食べ物を味わう。いろいろなスナップショットを並べてみました。どこで撮ったかわかりますか？



地方防衛局調達部では、若手技官への技術教育としてOJTを積極的に行っています。この日は現場打合せに参加。官民合わせて様々な人たちのチームワークで工事が進みます。



これも職場での風景です。ほかの職員の方々と図面を梱包しています。この日は、現場の予定もなく、少しラフな感じで。職場での服装は、比較的自由です。



職場での風景。フロア内全体でコロナ感染予防対策を継続しています。同僚に助けられ、マイボトルに支えられて、生きています。



防衛技官な私たち

安全保障の本丸から、最前線の現場へ。
入省1年目は、防衛本省で「安全保障」の世界に飛び込みました。入省2年目の2022年から、沖縄防衛局に異動となり、施設整備の最前線で経験を積んでいます。私たち3人はたまたま同じ機械設備分野を担当しており、建築や土木分野を担当同期2名も沖縄で勤務しています。建設工事はこれまで触れたことのない分野で、初めて学ぶことが多いのですが、学生時代に培った工学的素養を思い出しつつ、先輩職員の方々と丁寧な仕事を教わっています。



自衛隊基地での建設現場です。工事図面をしっかりと理解し、現物をしっかりと見る。「学び」「気づき」「疑問」の連続で、3人で話し合うこともありました。



「給水管の引き込みって、どこからだっけ?」「空、青いね」「掘削と配管敷設のスケジュール調整も大丈夫?」「空、青いね」「……………うん、空、青いね」



建物下のビット内。暗闇に埃にまみれて、配管の仕上がりをチェックする。機械設備担当監督官の宿命です。



沖縄防衛局調達部設備課係員(機械設備担当) 学生時代の研究テーマ「伸展式連続体マニピュレータの開発」 2021年入省 技術系(施設系) 専門:機械

好きな沖縄の固有種は、カンムリワシ。



沖縄防衛局調達部設備課係員(機械設備担当) 学生時代の研究テーマ「複合材料の均質化法」 2021年入省 技術系(施設系) 専門:機械

好きな沖縄の景色は、恩納村のビーチ。



沖縄防衛局調達部設備課係員(機械設備担当) 学生時代の研究テーマ「係留気球で得られた気象データと気象画像の関係性」 2021年入省 技術系(施設系) 専門:機械

好きな沖縄の城は、勝連城跡。



防衛省の施設系技官ならではのやりがい。

学生時代は土木工学を学び卒業後、建設会社に就職しました。その会社で土木工事の施工監理に携わっていたのですが、土木の知識を活かしてもっと幅広い多面的な仕事にチャレンジしたいという気持ちで次第に大きくなりました。そこで3年間、建設会社に勤めた後、国家公務員を目指すこととし、無事防衛省の試験に合格しました。試験合格から入省するまでの無職期間に、野宿をしながら自転車日本縦断をしたことは貴重な経験です。

入省して今年で14年目。自衛隊や米軍の基地建設業務や職員採用業務、国会対応や出向等様々なキャリアを積んできました。振り返ってみて、施設系技官の特徴は、施設のユーザーから直接ニーズを聴き取り、それを踏まえた設計、その施設の建設工事を監督し、施設完成後は供用している状況を見届け、次にフィードバックできること。また、施設建設のみならず、幅広い業務に携われること。これは他省庁の技官ではなかなか味わえないやりがいだと思っています。

施設系技官としての専門性を深め、しなやかなチームづくりに取り組んでいく。

現在、数名の職員を率いる班長として、普天間飛行場代替施設

Civil Engineering

整備計画局提供施設設計画官付
再編施設整備室防衛部員
2009年入省
専門：土木

技官を募集していることを知りました。それまで安全保障というのは歴史を勉強する中で触れる分野であって、関心はありましたが自分が携われる余地があると思っていて、意欲が立って来れました。現在、入省してちょうど10年目ですが、つひとつの仕事を通じて、国の平和に携わっている実感があり、やりがいを感じています。

スケールもやりがいもある仕事である分、大変でキツイ時もありますが、私はできるだけ楽しんで仕事をすることを意識しています。憧れの先輩方がそう働いていたからですが、そう意識すると実際に仕事も楽しくなってきました。仕事を楽しむためにはオフタイムのリフレッシュも大切で、週末は家族で旅行に行くのが趣味です。コロナのおかげで、国内旅行の楽しさを再発見しました。平日は、動画配信を観ることが多く、特に海外の料理番組にハマっています。料理も海外の方の視点が入ると新たな発見があり、良いいりフレッシュになります。

海外と言えば、私は入省5年目の時、スウェーデンの大学院に留学し、サステナブルなまちづくりを学びました。防衛分野でも、これからは持続可能性が欠かせないテーマです。今後、そんな視点からの業務にもチャレンジしてみたいと思っています。



メンバーの経験値を高め、チームの力を最大化するために

防衛省の施設系技官ならではのやりがい。

幅広く前向きに挑戦する。

2019年に入省し、防衛政策局で日米防衛協力に係る連絡調整業務を経験した後、南関東防衛局に異動し、自衛隊や米軍の防衛施設の建設工事で工事監督業務を担当しました。現在、所属する地方協力局沖縄協力課は、沖縄県における基地負担の軽減に取り組む部署です。その中で私は、米軍基地の再編に関わる業務を担当しています。わかりやすく言うならば、米軍施設として使っている土地の日本への返還に関わ



る業務です。その一つとして、現在、土地の返還に先立って、般利用可能な緑地公園を整備する事業の計画立案に携わっています。国と国との交渉による「土地の返還」は防衛省でしか関わることのない責任ある仕事。それだけに大きなやりがいを感じています。今後も、自分ならではのバックグラウンドを活かしながら、柔軟に政策を立案できるような職員になりたいと思っています。

仕事と同様に、プライベートでも前向きな挑戦をしたいと思い、社会人になってから、NEW JACK SWINGというダンスを趣味で始めました。ヒップホップダンスの一種でステップを踏んだりする動きのあるダンスです。今後もダンスは続けつつ、それ以外にもまた新たな趣味などに挑戦していければと思っています。



地方協力局沖縄協力課
米軍再編班係員
2019年入省
専門：電気

防衛省でしか味わえないやりがいのため前向きに

当たり前前の生活が崩れていく危機感を抱き、子供の頃の思い出が頭をよぎった。

安全保障という領域で、自分の知識が活かせることを知って意欲がかきたてられた

防衛政策局日米防衛協力課
米軍再編班防衛部員
2013年入省
専門：建築

いつでも楽しみながら仕事にチャレンジしたい。そのためには、オフタイムが充実していることも大切。

学生時代は建築デザインを学びました。デザインすることより、それが生まれてくる歴史の方が好きで、民間企業への就職も考えましたが、何かが違う気がしていました。そんな時、防衛省が施設系に取り組んでいます。

第一線で積み上げてきた様々な経験。現場につなげたいと考えて交渉に臨む。

現在、日米防衛協力課という、防衛省の中でも、政策的なポジションで米国と協議・交渉等を行う部署に所属しています。米側との協議や会議は、閣僚級から担当級まで様々なレベルで日々行われていますが、自分が担当する分野がトピックに上げれば、どう話すのが効果的なのかと、相手に応じた発言内容を用意したり、その結果をどう外向けに説明したら伝わりやすいかと、対外的な説明資料を作ったりするのが、私の主な仕事です。

担当している分野は、米軍再編と呼ばれる事業です。これまでに、在沖海兵隊のグアム移転事業や、普天間飛行場代替施設建設事業など、米軍再編の個別の事業を実施している部署にいた経験があり、これらのキャリアで得た知識が現在の仕事に活かされています。また、振り返ってみると、九州防衛局で過ごした2年間の経験は貴重でした。自衛隊や米軍の施設整備に携わり、設計・積算などの発注業務から工事の監理まで現場業務をひと通り経験しました。現在の仕事は施設系技官としては政策側の業務ですが、政策を実施に移していくと、その最前線に現場があります。政策が現場で実現していくまでの姿をイメージできるのは、過去の経験のおかげです。政策の実現を常に意識しながら、つひとつの業務に取り組んでいます。



施設系技官の紹介

国家的大規模事業を推進させていく手応えは、施設系技官ならではのやりがい

防衛施設の安定的な運営のために部長職として100名以上の職員を率いる。

南関東防衛局では、自衛隊や在日米軍の運用を支える基盤としての防衛施設が数多く所在する神奈川県・山梨・静岡の3県を管轄しています。現在私部長を務める企画部は、これら防衛施設の安定的な運用のために、防衛施設と地域社会の共存・共生の観点から、住宅防音工事や障害防止工事、医療費助成、消防車・コミュニティバスの整備など、地域社会との調和を図る様々な施策に取り組んでいます。また、これまでのキャリアにおいては、演習場、飛行場、港湾、庁舎などの防衛施設の整備にも取り組んできました。

これらの取組に共通して重要なことは、地方自治体や地域の方々の理解と協力を得て、政策を進めること。私は、防衛省を代表する立場で各種説明の場に参加することがよくありますが、できる限りわかりやすい言葉で、相手の関心事項に耳を傾け、状況に応じた説明を尽くすことを常に意識しています。また、この姿勢は、省内の各部署や関係省庁と調整を行う場合にも同様に大切なことです。

このようなプレイヤーとしての業務に加えて、最近ではマネージャーとしての業務の比重が増えてきました。現在企画部の職員は約100名。ワークライフバランスにも気を配り、職員たちが効率良く意欲を持つ

IN MY YOUTH



本省係長(30代前半)時代、配置検討に関わっていた頃

NOW



企画部長(50代初め)として

南関東防衛局企画部長

1997年入省

専門:土木

て業務に取り組める環境づくりに力を入れていきます。私なりに考えた仕事への向き合い方を「働き方改革宣言」として浸透を図るなど、職員たちの意識改革にも取り組んでいます。

困難を乗り越え、平和を支えていく
気概のある若い人たちとともに。

これまでのキャリアステップを振り返ると、実に多様な経験を積んできたと感じます。普天間飛行場代替施設建設事業や馬毛島の施設整備をはじめ、大規模プロジェクトにも携わってきました。普天間飛行場代替施設建設事業では、配置検討の素案づくりから日米協議、現地調査、環境アセスメント、住民説明会、工事進捗管理、予算取得、国会対応に至るまで、幅広い分野を担当。期間も限られる中、職員一丸となって目標に取り組むあの高揚感は、今でも忘れません。米国や関係省庁、地元自治体など多様な組織と厳しい調整を

重ねながら、国の重要な政策を推し進めていく手応えは、防衛省の技官ならではのやりがいだと感じています。このような国家的なプロジェクトに、技術者の立場からチャレンジしてみたいと思ったことが、私が防衛省を志すきっかけでした。厳しさを増す我が国を取り巻く安全保障環境において、自衛隊や在日米軍が円滑に活動するための防衛施設が担う役割はますます高まっており、施設系技官が活躍する場も広がっています。私たちの仕事には困難を伴うことも多くありますが、それだけに責任もやりがいも大きい。自分自身の力で困難を乗り越え、道を切り拓き、国の平和を支えていこうという若く気概のある人たちとぜひ一緒に働きたいと思っています。

若い後輩たちが活き活きと全力でチャレンジできる環境づくりに力を注いでいきたい

全ての仕事は国の平和につながっている。
若手のうちからやりがいを感じて取り組んできた。

学生の頃、米国で同時多発テロが起こり、その様子をニュースで見て衝撃を受けました。それが安全保障を意識するようになったきっかけです。大学では土木工学を学んでおり、ふと興味を感じて調べてみて、施設系技官という仕事があることを知って、防衛省を目指すことにしました。入省してすぐの頃はとにかくがむしゃら。経験がないので知識量が圧倒的に少ない。その知識を少しでも早く身につけようと一生懸命でした。たとえ若手といえども、私たちの仕事は全て国の平和の維持につながっているものと信じ、常にやりがいを感じて仕事に取り組んでいました。そんなキャリアの中で大きな転機になったのは、2017年に沖縄防衛局で課長に昇任した時期です。国の政策の実施を現場で指揮するポジションに立ち、改めて防衛省での仕事の重大さを実感して、日々の覚悟感が高まりました。

若い頃から蓄積してきた多様な情報が今の業務を支えていると日々実感する。

現在は、在日米軍施設における建設工事などの調整を担う部署で総括班長を務めています。役割は、数十名いる課の職員たちが仕事を上手く回せるようにサポートするポジション。省内の関係部署や関係省庁との調整、対外的な発信などに加え、課の職員たちの業務についてアドバイスをし、時には悩みを聞いて相談にのったりしています。様々な調整では、相手の意見を尊重しながら、自分なりの考えを織り交ぜて伝えるように心がけています。そうすることで意見の取りまとめもスムーズになり、合意形成のための調整が面白く感じるようになってきました。そんな難しい仕事をこなせるようになったのも、若手の頃から積み上げてきた情報量のほかで解答を

見つける。勘。がついたからなのだと思います。防衛施設の企画立案では、国の政策に関わるだけに多様な要素が絡み合います。それはとても複雑な連立方程式を解くような仕事でもあるのです。今年でちょうど入省20年目ですが、振り返るとどの部署での仕事も面白く、その仕事に全力でぶつかっていくことで自分なりに成長できてきたと感じています。この先のようなポジションについても、これから入省してくる若手を含め後輩たちが活き活きと全力でチャレンジできる組織づくりに常に力を注いでいきたいですね。

IN MY YOUTH



入省3年目(20代半ば)、執務室にて

NOW



総括班長(40代前半)として

整備計画局提供施設計画官付総括班長

2003年入省

専門:土木

Civil Engineering

Civil Engineering